

順天堂大学 URA (JURA) 活動報告書  
2014～2019

順天堂大学研究戦略推進センター

2019年11月

目 次	頁
はじめに	2
<b>I. URA (University Research Administrator) の概要</b>	
1. 沿革	3
2. URA の必要性	4
<b>II. JURA (Juntendo University Research Administrator) の概要</b>	
1. 沿革	5
2. JURA の構成・機能	5
3. JURA の役割と特色	5
<b>III. JURA の業務・実績</b>	
1. 競争的研究資金申請支援	
(1) 科学研究費助成事業等	7
(2) 海外競争的研究資金	12
2. 大型研究プロジェクト支援	
(1) センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム	
① 事業の概要	13
② URA による支援	14
(2) 私立大学研究ブランディング事業	18
3. 研究広報支援	
(1) 概要	23
(2) URA 支援成果のポイント	24
(3) 研究広報の波及効果	25
(4) 各メディアの利用	27
(5) 海外への発信と波及効果	28
4. 研究 IR 支援	31
5. 大学間連携支援	33
6. 研究戦略会議への参画	
(1) 外部資金獲得を目指した研究成果リリースの効果とその活用	35
(2) 研究者の研究時間を確保するためのサービス	37
(3) 科研費申請書レビューサービスの年次状況	40
(4) 一般社会へ向けた大学・研究ブランディング戦略	41
<b>IV. JURA の課題</b>	42
おわりに	43

## はじめに

順天堂大学は世界に存在感のある健康総合大学・大学院大学として、日本有数の教育研究基盤と臨床研究実践の場を活かした国際的レベルの教育・研究を展開しております。画期的な健康医療イノベーションを生み出す基礎臨床融合研究、スポーツロジック予防医学研究を推進し、国内外の大学・研究機関との連携・協働によってグローバルリーダーを育成しております。

このような大学改革を推進しつつも、昨今の研究の高度化・細分化および研究領域の多様化に伴い、大学の研究者は研究・教育活動以外のマネジメント業務が増大し、研究活動に費やす「時間」が年々減少しており、「質」の低下が懸念されているのが現状です。

そこで本学の更なる研究機能の高度化を推し進め、効率的に世界的研究推進体制を強化するために、2012年には研究支援専門職者(URA: University Research Administrator) 2名を雇用し、2014年には、学内研究支援組織を再編統合し、研究戦略推進センターとして研究支援強化体制を図ることとしました。

それ以来、満5年を経過し、また我が国の大学を巡る研究環境は大きく変化していることから、URAによる研究支援活動(URA活動)に関しこれまでの5年間を振り返るとともに、今後を展望することによって、本学における研究支援体制について一層の充実強化を図り、順天堂大学が国内外において注目される研究拠点として発展することを目指します。

この報告書は、2017年から始まった本学のURA全員が参加する研究戦略会議の成果であると同時に、ここに収録されている各種のデータ等は本学の研究大学としての一端を表していることをご理解いただければ幸いです。

2019年11月

学長特別補佐  
木南 英紀

## I. URA (University Research Administrator) の概要

### 1. 沿革

我が国における URA の成り立ちを巡っては種々の要因が考えられるが、以下に示す項目によれば、大学を所管する文部科学省の諸施策が主な要因であるといえる。

#### (1) URA の草創期

文部科学省は、大学における研究推進体制の充実強化策の一環として、2011 年 7 月に「リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備」に関する公募事業を開始、これを契機に大学において URA が導入されるようになる。

この公募要領では、URA について以下のように記述している。

本事業における URA は、大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置づけとして）研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行う（単に研究に係る行政手続きを行うという意味ではない。）ことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。例えば、研究者とともに行う研究プロジェクトの企画、研究計画等に関する関係法令等対応状況の精査、研究プロジェクト案についての提案・交渉、研究プロジェクトの会計・財務・設備管理、研究プロジェクトの進捗管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進などが URA の業務として考えられます。

#### (2) URA の制度化

文部科学省は、URA の制度化を目指し、上記(1)の公募事業により 2011 年から 2 年間にわたり、国立大学を中心に 15 大学に対して所要の助成を行った。

さらに、2013 年に開始した「研究大学強化促進事業」では、採択した国立大学 17 校、私立大学 2 校の大学（下表）において URA 体制の整備充実が図られている。

国立大学	北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、電気通信大学、名古屋大学、豊橋技術科学大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、岡山大学、広島大学、九州大学、熊本大学、奈良先端科学技術大学院大学
私立大学	慶應義塾大学、早稲田大学

#### (3) URA の展開・定着

文部科学省は、上記整備事業の継続と並行して、「研究環境整備をサポートする仕組みの整備」として、URA における「①スキル標準の策定」、「②研修プログラムの整備」、「③人材育成・キャリアの形成・研究経営への寄与等に係る調査研究」、「④質保証に資する認定制度の構築に向けた検討」などを実施している。

なお、同省調べによれば、2018 年 3 月時点で、URA は全国の大学等の 146 機関において 1,225 人が配置されている（「平成 29 年度大学等における産学連携等実施状況について」）。

## 2. URA の必要性

文部科学省が上記 1. の各種事業を実施する背景は、「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」の公募要領（2011 年）において、以下のとおり端的に示されている。

我が国の大学等では、研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材が十分ではないため、研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあります。このような状況を踏まえ、大学等における研究推進体制の充実強化を支援することにより、研究者の研究活動活性化のための環境整備及び大学等の研究開発マネジメント強化等を図っていくことが求められています。

また、文部科学省は「平成 30 年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査」の結果を本年 6 月に公表し、その概要「3. 大学等教員の職務活動時間の過去 4 回調査の比較(1)全体」では、以下のとおりコメントしている。

教員の研究活動時間割合は平成 14 年度から平成 25 年度にかけて減少傾向にあるが、平成 30 年度もその傾向が続いており、平成 25 年度より 2.1 ポイント減少し 32.9%となった。

このような大学における教員の研究環境の現状、とりわけ研究活動時間割合の減少が課題となっていることは明らかであり、これが URA を必要とする主因となっている。さらに、その概要「(5) 国公立別」の「図表 15」による研究活動時間割合の推移を抽出すると下表のとおりであり、私立大学は国公立大学に比して総じて割合が低く、全年度における大学全体の平均に達していない。この観点からすると私立大学における URA の必要性は、国公立大学に比して高いといえる。

調査年度	私立大学	国立大学	公立大学	大学全体
2002 年(平成 14 年)	42.7	50.7	47.2	46.5
2008 年(平成 20 年)	34.1	43.4	39.3	39.1
2013 年(平成 25 年)	29.9	42.5	36.6	35.0
2018 年(平成 30 年)	28.5	40.1	31.4	32.9

2018 年 6 月に閣議決定された「統合イノベーション戦略」においては、大学教員（助教）の研究時間割合の確保が目標（下表①参照）として設定され、またリサーチ・アドミニストレーターの質的充実（下表②参照）について指摘されている。これらは、URA の必要性を明確に示している。

①	・2023 年度までに助教の職務活動時間に占める研究時間の割合を 5 割以上確保
②	・文部科学省及び関係団体は、2019 年度からリサーチアドミニストレーターの実務能力に関する質保証制度の構築に向けた制度設計・施行に係る調査研究を推進

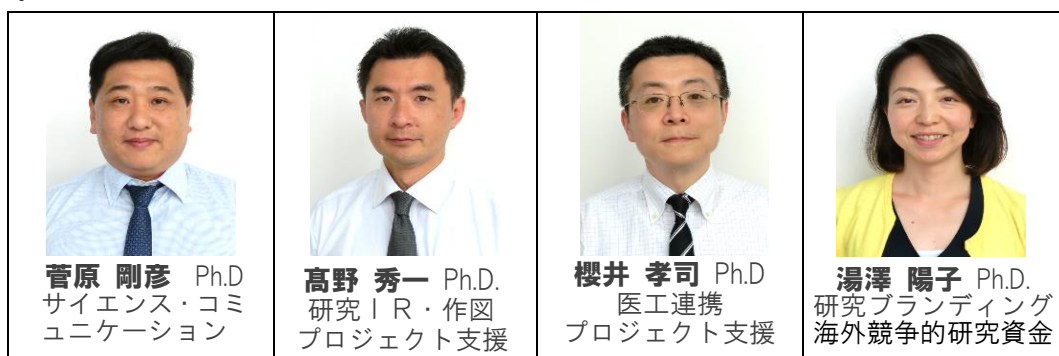
## II. JURA (Juntendo University Research Administrator) の概要

### 1. 沿革

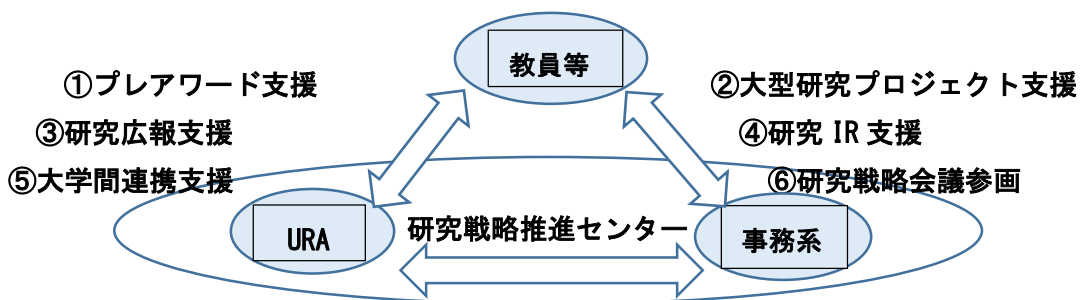
2014年において、本学は研究者らが学術・研究活動を円滑に推進できるように、企画、調査、特許化、財務の業務を主体として活動し、良好な研究環境づくりに貢献するため、研究戦略推進センターを設置すると同時に、研究力の向上と研究成果の社会還元に向けて、グローバルな視点で最先端の情報を取り入れつつ、高い水準の順天堂大学リサーチ・アドミニストレーション体制を構築している。

### 2. JURA の構成・機能

JURA は、2012年8月に URA2 名で発足し、現在では4名の URA が活動している。



URA は、研究戦略推進センターにおいて、科研費等外部資金申請担当などの事務系職員と密接に連携しつつ、研究者の研究活動を支援している。



### 3. JURA の役割と特色

JURA は、基本的には教員等の研究者のニーズに応じて、研究活動上の各種の支援を行い、本学の研究力の発展に資することを役割としている。

主な具体的業務は上図①～⑥のとおりである。

これらの業務を的確に遂行するため、JURA は教員等のニーズに応じて各 URA が協働しつつ自律的に支援活動を行い、事務系職員とともに一体的に支援するところに JURA の特色があるといえる。

また、本学の URA 募集においては以下のように高いレベルの能力を求めていることも特色の一つである。

- (1)大学・研究機関（企業含む）で研究又は研究支援の業務に3年間程度従事した経験のある者
  - (2)バイオ・医歯薬、化学分野に関する学位（博士又は同等と認められる業績等を有する者）を持ち、更に知的財産活動、産学官連携活動をはじめ、研究費獲得や管理等の支援に対して意欲のある者
  - (3)科研費等競争的資金に研究代表者又はその担当者として採択実績があることが望ましい
- (JST jrec-in portal 求人公募情報検索「応募資格」より抜粋)

### III. JURA の業務・実績

URA の具体的な業務については、「例えば、研究者とともに行う研究プロジェクトの企画、研究計画等に関する関係法令等対応状況の精査、研究プロジェクト案についての提案・交渉、研究プロジェクトの会計・財務・設備管理、研究プロジェクトの進捗管理、特許申請等研究成果のまとめ・活用促進など」（上記 I. 1. (1)[3 ページ]）があり、URA は実態として大学における多種多様な業務を担当している。

JURA においては、以下に記載するとおり、競争的研究資金申請、大型研究プロジェクト、研究広報、研究 IR 及び大学間連携に関する支援業務などを行っている。

#### 1. 競争的研究資金申請支援

##### (1) 科学研究費助成事業等

科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）は、我が国最大の競争的研究資金であり、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とした、文部科学省（日本学術振興会）の実施する事業である。

このようなことから、科研費申請者のほとんどは大学における研究者であり、多くの大学では科研費の採択状況を研究力の重要な指標の一つとしています。

このため、JURA の活動においては、科研費に関し主に次の 3 項目について教員等に対するサービスを実施している。

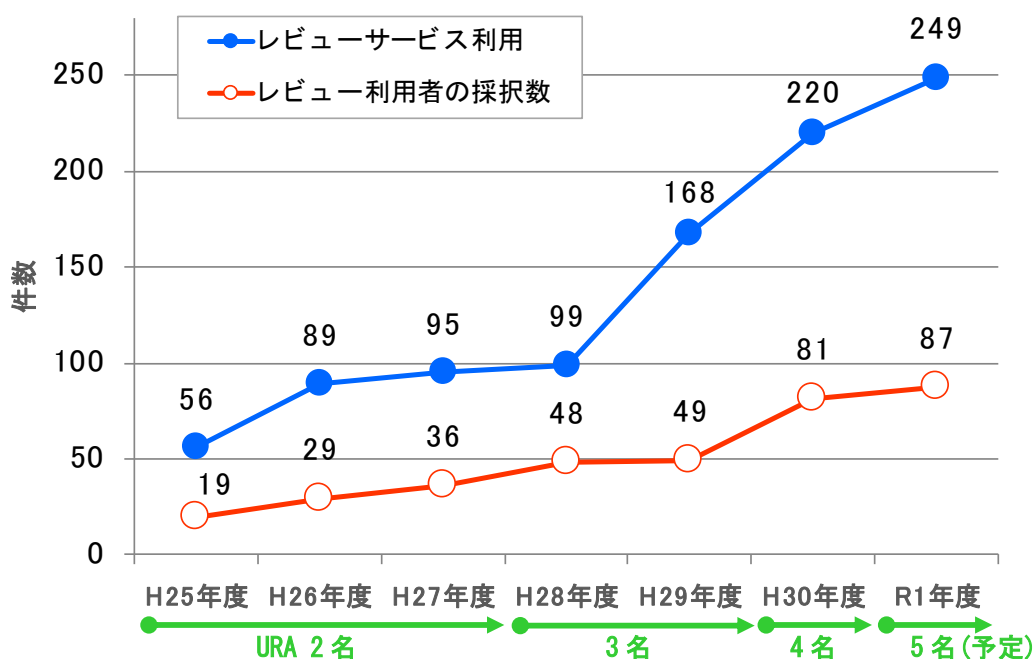
- |  |
|--|
| ・ 申請書のレビュー（面談、改善コメント、不採択分析、申請先分野分析、など） |
| ・ 記入ガイドの提供（審査評点に基づく記載必須事項、表現方法、図表例、など） |
| ・ 研究提案書の書き方説明会（記入のコツ、過去の採択・不採択分析結果、など） |

申請書のレビューサービスは 2013 年度の科研費申請分より開始して、当初 56 件であった教員等からの依頼数は 6 年後の 2019 年度には 4.4 倍の 249 件となった（III-1-①[8 ページ]）。採択数も同様に当初の 4.5 倍程度の増加となった。

各レビューは依頼者の要請に応じて面談とメールで複数回実施している。当初は 8 月初めから依頼を受けていたが、現在は不採択通知が届く 4 月より開始し、大学における申請書提出期限の 11 月初め直前まで対応している。サービスの対象は、科研費に申請できる条件を満たす常勤・非常勤教員から大学院生である。



(Ⅲ-1-①) レビューサービス依頼数と採択数の推移



申請書のレビューまたは記入ガイドを活用した研究提案書は過去 7 年間の累計で 1,602 件となり、その 36.2%にあたる 580 件が採択となった (Ⅲ-1-②)。一方、上記サービスを利用しなかった研究提案書の採択率は 22.4%であり、サービスを活用した研究提案書の採択率と比較すると、約 14 ポイントの差がでる結果となった。

(Ⅲ-1-②)

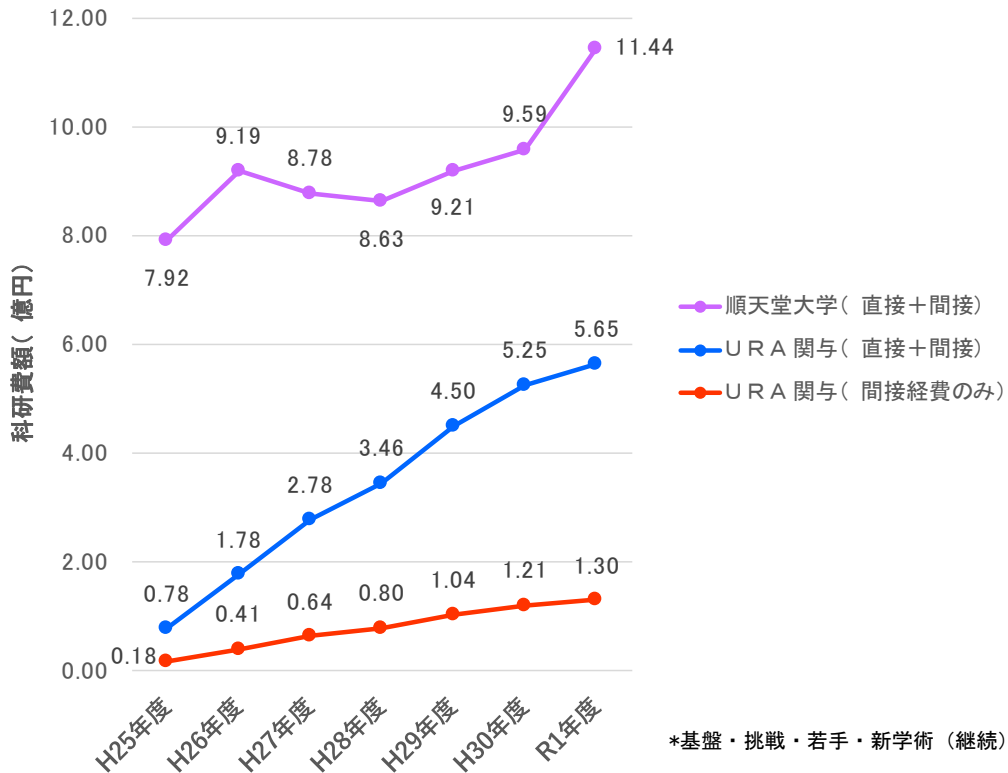
過去 6 年間の URA サービス(レビューまたは記入ガイド)利用件数とその採択率

H25-R1年度*	件数	採択数	採択率
サービスの合計	1602	580	36.2%
レビューサービス活用	976	349	35.8%
記入ガイドのみ活用	626	231	36.9%
サービスの非利用の合計	2562	575	22.4%
総計	4164	1155	27.7%

\*基盤・挑戦・若手・新学術 (継続)

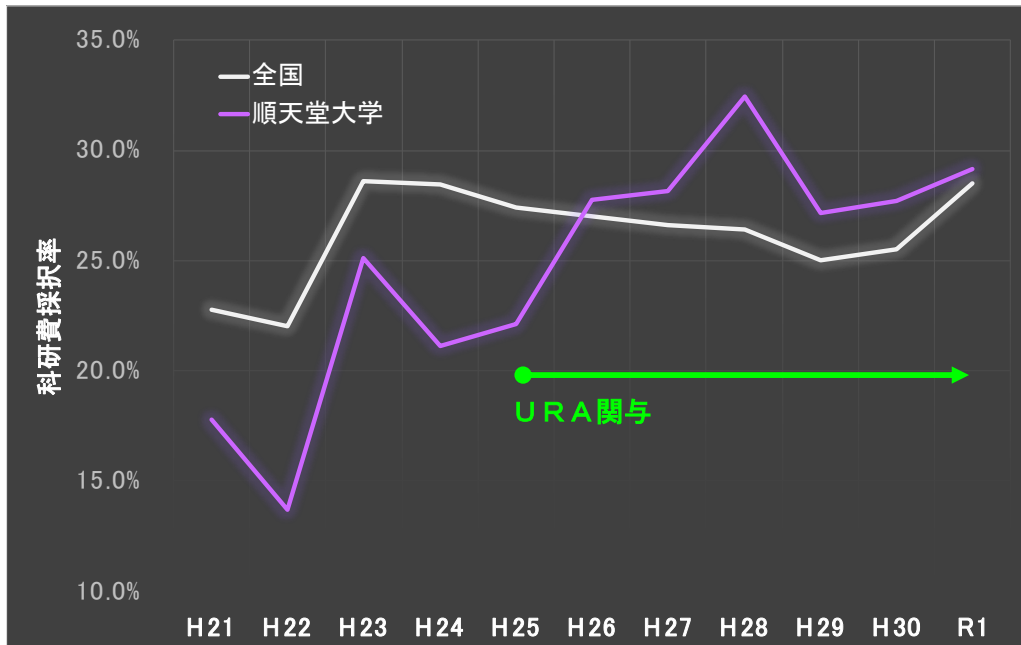
レビューまたは記入ガイドの活用があった、すなわち URA の関与があった研究提案書の研究費額は年々最大 1 億円程度増加し、過去 7 年間の累計は 24.2 億円(間接経費 5.6 億円)となった。なお、順天堂大学の科研費採択額全体としては、平成 26 年度以降は 9 億円前後の水準となり、令和元年度で 10 億円を突破した (Ⅲ-1-③[9 ページ])。

(Ⅲ-1-③) URAが関与した科研費配分額の推移

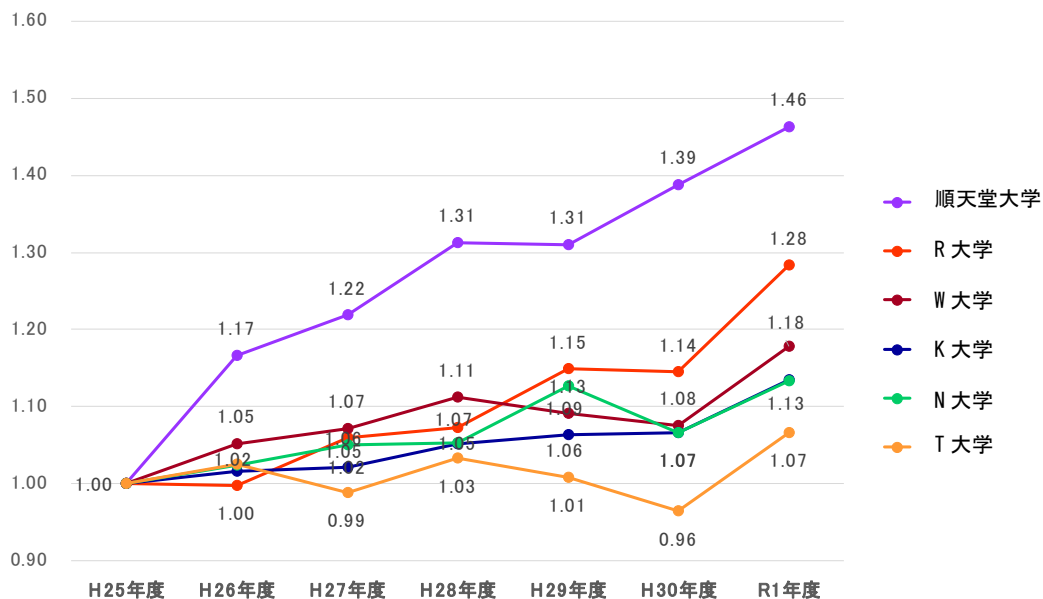


なお、URAが科研費申請に関与を始めた年度分の翌年である2014(平成26)年度以降、本学の科研費採択率は全国の採択率を超える結果となり(Ⅲ-1-④)、また、科研費採択の件数は、私立大学の中で採択件数上位校が低迷する中、大幅な伸び率(6年で約1.4倍)となった(Ⅲ-1-⑤[10ページ])。このように、本学における科研費申請へのURAの関与は、採択率の好結果の一因となっているといえる。

(Ⅲ-1-④) 順天堂大学と全国の科研費採択率  
(基盤・挑戦・若手・新学術継続)



(Ⅲ-1-⑤) 順天堂大学と採択件数上位の私立大学の科研費採択件数の伸び率  
 (文部科学省発表資料に基づき作成)



JURA が実施している科研費の申請支援に対する評判は、支援を受けた教員からの数々のお礼メールの表現からみてとれる。一連のレビューを完了した後は必ず謝意を受けるが、その中には『感動』『感銘』『感嘆』との表現が含まれるものがある。これらの言葉は、期待以上の満足を受けたことによる気持ちの表れかと推察される。

さらに、例年4月に採択の知らせを受けた教員らからは、どのようなサービス内容が良かったのかという感想とともに、喜びと謝意の連絡も受けている（次ページ）。

## JURA レビューサービスへのお礼のメールの例 (強い謝意表現を含む文の抜粋)

2013.10.23	准教授 ※現在教授	素晴らしいクールな研究計画書ができた感激しています。
2016.10.31	助教	最後の最後まで細部に渡りご確認、修正、加筆にご尽力頂きまして誠にありがとうございました。最後は本当に見やすい良い形に仕上げさせて頂きましてありがとうございました。
2017.08.18	特任准教授	とても綺麗になっていて、感動しました。
2017.09.30	特任教授	素晴らしいレビューをしていただき、本当にありがとうございます。同じ内容なのに、書き方によってこんなにも違って来るものなのかと、感嘆しました。。。
2017.11.01	PD	とても丁寧にご修正くださり誠に有難うございました。見易さが段違いですね！プロってすごいですね。
2018.10.26	准教授	萌芽修正拝見致しました。とても洗練されております。ありがとうございます。
2018.10.31	教授	完成度が高い書類とのことですが、これも高野様のコメントあってのことです。専門に書類を確認・指導して下さるご担当者によるご指摘とコメントがあって、ここまで作成できたと深く感謝しております。
2019.05.27	大学院生	書類をご校閲、修正頂きまして誠にありがとうございます。自己評価欄におきましては最後まで読み進むとじわじわと感動を覚え涙が出そうになりました。
2019.05.27	先任准教授	正直申しまして、ここまで指導して頂けるものなのか、と深く感動しております。

なお、科研費以外の競争的研究資金として日本医療研究開発機構(AMED)公募事業・厚生労働科学研究費補助金や公益財団等の研究助成金があり、これらに応募する教員に対する URA の支援は、科研費申請書レビューと同様に実施している。

## (2) 海外競争的研究資金

海外競争的研究資金（以下「海外グラント」という。）に対する支援として、これまでに以下のとおり実施している。

- ・海外への応募に必要な機関情報（Ⅲ-1-⑥）の登録と維持管理
- ・教員への海外グラント情報の提供
- ・海外グラントの申請書類作成支援・相手先担当者との交渉

### （Ⅲ-1-⑥）海外グラント応募に関連し整備した機関情報

機関登録名	特徴	作業
DUNS number	世界的企業認識コード	情報の整理
SAM	米国政府登録システム	アカウント更新・担当者変更
NCAGE	NATO/米国政府登録システム	情報の整理・担当者変更
Fastlane	米国 NSF 予算申請システム	新規登録

海外グラントの機関登録については、2018年まで研究戦略推進センターでの扱いが無く、また一部については登録当時に他部署が担当していたために情報が錯綜していた。こうした状況を受け、各海外グラントへの申請に必要な機関登録の洗い出し、それらのアカウントについての現状把握を行い、既存アカウントが存在するものについては更新を行うとともに担当部署を研究戦略推進センターに集約することで、一括した管理が行える体制となった。

海外グラント情報の提供は本学の外国人教員からの要請に基づくもので、主な作業は特に国際共同研究に適した助成金情報の収集と整理である。

海外グラント申請については以下に示すとおり、2件の申請を支援した。

競争的資金	配分機関	研究代表機関	申請完了
NIH R01	米国国立衛生研究所 (NIH)	Ed Hines Jr. VA Hospital	2019.02.15
NSF	米国国立科学財団 (NSF)	West Michigan University	2019.05.31.

いずれも本学教員は共同研究者としての申請であったものの、本学から海外グラントに申請する例は少なく、研究戦略推進センターによる支援を行ったのは本年が初めてである。書類作成支援の内容は予算案の計上 (Budget)、予算の用途説明 (Budget justification)、設備備品説明 (Resources)、意思表明書 (Letter of Intent)、経歴 (CV) などであった。一方米国のグラント担当者とは、申請要件に関する情報共有と申請書類の作成、また間接経費割合についての交渉を行った。

これらに関して本学教員からは「研究戦略推進センターには NSF グラント申請に多大にご協力頂きました」との謝意が表明されている。

さらに、米国側の研究代表者 (Western Michigan University : William W Liou) から ("What a great team effort! Thank you, all.")、及びグラント担当者 (Megan Derksen) から ("I would like to sincerely thank every one of you for your hard work on this project, your flexibility when the schedule got rushed this week, and your willingness to learn and follow NSF's guidelines. It was great to work with you.")、それぞれに感謝のコメントが寄せられている。

## 2. 大型研究プロジェクト支援

### (1) センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム

#### ① 事業の概要

2013年度から2014年度にかけてCOI-T(トライアル)拠点として採択された文部科学省「研究成果展開事業 センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム」の活動が評価され、本学と立命館大学との連携拠点がCOI拠点として2015年度に決定した。

本プログラム(運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点)では、空間価値を変える新しいスポーツ健康技術(スマートウェア技術、空間シェアリング技術、運動誘導/継続技術)(立命館拠点)と、寝たきりゼロを目指す「ロコモの見える化と予防法の開発」(順天堂拠点(Ⅲ-2-①))をハイリスクではあるが実用化の期待が大きい異分野融合・連携型の基盤的テーマに対し、研究戦略推進センターは集中的な支援を行い、科学技術振興機構(JST)との協働のもとで産学が連携する研究開発チーム(Ⅲ-2-②)により社会実装を目指している。

#### (Ⅲ-2-①) 順天堂拠点の主要メンバーと成果品(COI情報誌ACTIVE4号より抜粋)

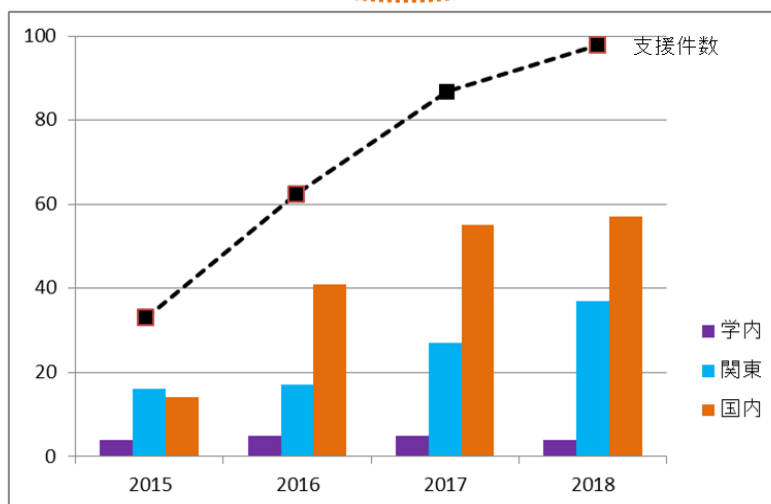
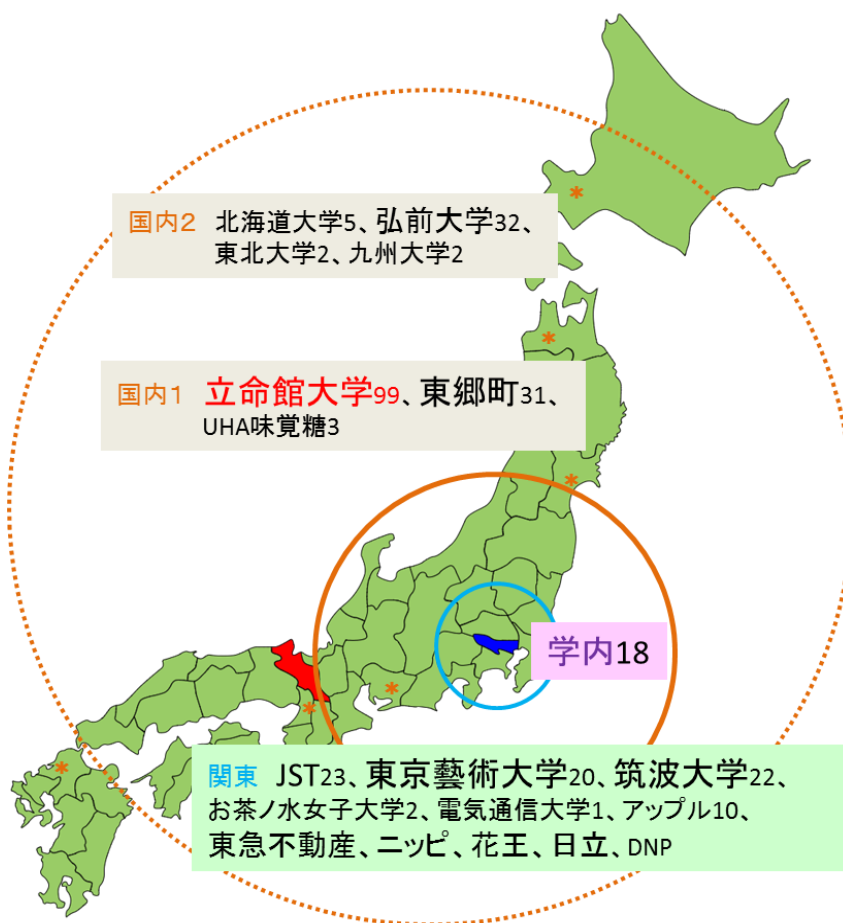


#### (Ⅲ-2-②) 本年3月時点での参加機関のロゴ(右上は文部科学省COI事業のロゴ)


## ② URA による支援

JST や立命館大学をはじめとする参画各機関とアンダーワンルーフ体制での事業実施に当たり URA を配置し、2015 年 6 月から本年 3 月までに延べ 294 件の支援を行った。連携先のマップ（Ⅲ-2-③上図）と年次ごとの支援件数推移（Ⅲ-2-③下図）は以下のとおりであり、支援の内訳は次ページ以降の（Ⅲ-2-④）から（Ⅲ-2-⑥）のとおりとなっている。（内訳：会議 60 件、シンポジウム 10 件、報道 12 件、出展 13 件、打合 190 件、書類 9 件）。

（Ⅲ-2-③）上図：連携機関所在地。機関の数字は支援数。下図：支援件数の年次推移。



## (Ⅲ-2-④) COI 事業支援 (2015、2016 年度)

年度	月日	名称	場所	内容	規模	
2015 年度	6月29日	拠点推進会議(H27年2回目)	順天堂	会議1	学内	
	7月1日	第1回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議2	国内	
	7月7日	サイトビジット	立命館大大阪いばらきキャンパス	会議3	国内	
	7月24日	拠点推進会議(H27年3回目)	順天堂	会議4	学内	
	8/27-28	JSTフェア2015	東京ビッグサイト	出展1	関東	
	9月18日	団塊世代・町田先生	NHK Eテレ2000~2045	報道1	国内	
	10月9日	拠点推進会議(H27年4回目)	順天堂	会議5	学内	
	10月16日	サテライト拠点特設HPページ公開	順天堂	報道2	学内	
	11月2日	第2回ビジョン推進会議	JST	会議6	関東	
	11月4日	第2回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議7	国内	
	11月8日	東郷町と連携	中日新聞	報道3	国内	
	11月16日	立命館大学プレスセミナー	立命館大大阪いばらきキャンパス	報道4	国内	
	12月1日	続かなかったあなたへ	グランフロント大阪	シンポ1	国内	
	12月17日	JST三木様面談(濱田先生・平澤先生)	順天堂	打合1	関東	
	1月31日	平成28年度計画書	JST	書類1	関東	
	2月9日	内部評価委員会	順天堂・立命館TV会議	会議8	国内	
	2月16日	ロコモニター公開	プレスリリース	報道5	国内	
	2月24日	拠点面談リハーサル	順天堂・立命館TV会議	打合2	国内	
	2月24日	拠点面談	JST	会議9	国内	
	その他		企業打合せ(アップル、ニッピ)12回 立命館大学連絡会2回	主としてCOIプロジェクトルーム	打合 3-16	関東12 国内2
年度	月日	名称	場所	内容	規模	
2016 年度	4月4日	フェーズ1報告書	JST	書類2	関東	
	4月22日	拠点推進会議(H28年度1回目)	順天堂	会議9	学内	
	4月25日	第3回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議10	国内	
	5月16日	サイトビジットリハーサル	順天堂・立命館TV会議	会議11	国内	
	5月23日	サイトビジット	立命館大大阪いばらきキャンパス	会議12	国内	
	5月31日	平成27年度報告書	JST	書類3	関東	
	8月4日	拠点推進会議(平成28年度第2回)	順天堂	会議13	学内	
	8/25-26	JSTフェア2016	東京ビッグサイト	出展2	関東	
	9/7-9/9	JASIS2016(ロコモニター)	幕張メッセ	出展3	関東	
	9月28日	拠点面談	JST	会議14	関東	
	10月7日	学内委員会	順天堂	打合17	学内	
	10月21日	研究交流会	立命館大びわこ草津キャンパス	会議15	国内	
	10月22日	スポーツフェスティバル	立命館大びわこ草津キャンパス	出展4	国内	
	11月7日	COI第3回健康医療データ連携委員会	弘前大学	会議15	国内	
	11月8日	第4回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議16	国内	
	11月18日	文京博覧会(ロコモニター)	文京区シビックセンター	出展5	関東	
	11月21日	拠点推進会議(平成28年第3回)	順天堂	会議17	学内	
	11月22日	立命館大学プレスセミナー	立命館大学東京キャンパス	報道6	国内	
	12月5日	機関紙ACTIVE2号	立命館大学	報道7	国内	
	12月9日	生涯元気に活発に	紀尾井カンファレンス	シンポ2	関東	
	12月17日	国際教養学部セミナー	順天堂	シンポ3	学内	
	1月31日	平成29年度計画書	JST	書類4	関東	
	2月1日	内部評価委員会	順天堂・立命館TV会議	会議18	国内	
	2月3日	第1回東郷町地域協議会	東郷町町役場	会議19	国内	
	2月15日	拠点面談	JST	会議20	関東	
	2月20日	若手連携ファンドヒアリング	JST	会議21	関東	
	3月30日	COI第4回健康医療データ連携委員会	弘前大学	会議22	国内	
	その他		企業打合せ(日立、花王、DNP、アップル、東郷町施設サービス、ゲンゼほか)8回 立命館大学連絡会25回 健康見守りサービス連絡会4回	主としてCOIプロジェクトルーム	打合 18-65	関東7国内1 国内25 国内4



## (Ⅲ-2-⑤) COI 事業支援 (2017 年度)

年度	月日	名称	場所	内容	規模	
2017 年度	4月26日	学内委員会	順天堂	打合66	学内	
	5月11日	拠点推進会議(平成29年第1回)	順天堂・立命館TV会議	会議23	国内	
	5月23日	第5回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議24	国内	
	5月31日	平成28年度報告書	JST	書類5	関東	
	6月9日	サイトビジット	立命館大びわこ草津キャンパス	会議25	国内	
	7月1日	Gerontology講座シンポジウム	順天堂	シンポ4	学内	
	7月10日	COIプログラム事業成果中間報告会	JST	会議26	関東	
	7/16-7/17	第1回連携推進会議	順天堂	会議27	国内	
	8月6日	SummerArtsJapan2017	東京藝術大学	シンポ5	関東	
	8月30日	機関紙ACTIVE3号	立命館大学	報道8	国内	
	8/31-9/1	JSTフェア2017	東京ビッグサイト	出展6	関東	
	8月31日	ロコモ予防体操共同プレスリリース	東京ビッグサイト	報道9	関東	
	9月26日	第2回東郷町地域協議会	東郷町町役場	会議28	国内	
	10月1日	スポーツフェスティバル	立命館大びわこ草津キャンパス	出展7	国内	
	10月4日	シャキット!朝トレ(町田先生ロコモ予防体操)。	チバテレビ	報道10	関東	
	10月18日	学内委員会	順天堂	打合67	学内	
	11月2日	拠点推進会議(平成29年第2回)	順天堂	会議29	学内	
	11月17日	COI第5回健康医療データ連携委員会	弘前大学	会議30	国内	
	11/17-11/18	文京博覧会(ロコモニター、サプリメント)	文京区シビックセンター	出展8	関東	
	11月22日	第2回COI2021会議	科学未来館	会議31	関東	
	11月24日	JSTサイエンスアゴラ・COIモノガタリ	テレコムセンター	出展9	関東	
	12月20日	第6回COI拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議32	国内	
	12/26-12/27	第2回連携推進会議	弘前大学	会議33	国内	
	1月11日	第1回情報交換会(お茶の水女子大・順天堂)	順天堂	会議34	関東	
	1月31日	平成30年度計画書	JST	書類6	関東	
	2月5日	拠点面談リハーサル	順天堂・立命館TV会議	会議35	国内	
	2月19日	拠点面談	JST	会議36	関東	
	2月26日	若手連携研究ファンドヒアリング	JST	会議37	関東	
	2月27日	第3回東郷町地域協議会	東郷町町役場	会議38	国内	
	3月23日	若手研究者交流会(第1回)	順天堂	シンポ6	学内	
	3月23日	COI第6回健康医療データ連携委員会	弘前大学	会議39	国内	
	3月26日	第3回COI2021WS	JST	会議40	関東	
	その他		企業打合せ(日立、ニッピ、東急不動産、東郷町施設サービス、UHA味覚糖、NECほか)8回 立命館大学連絡会17回 健康見守りサービス連絡会11回 弘前大学連絡会9回 東京芸術大学連絡会7回 北海道大学連絡会3回	主としてCOIプロジェクトルーム	打合 68-123	関東6国内2 国内17 国内11 国内9 関東7 国内3

## (Ⅲ-2-⑥) COI 事業支援 (2018 年度)

年度	月日	名称	場所	内容	規模
2018 年度	5月14日	プラットフォーム構築	JST	会議41	関東
	5月18日	第7回COI拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議42	国内
	5月21日	拠点推進会議(平成30年第1回)	順天堂	会議43	学内
	5月25日	ロコモニタープラス公開	プレスリリース	報道11	国内
	5月31日	平成29年度報告書	JST	書類7	関東
	6月8日	人生100年時代を見据えた運動の生活カルチャー化への挑戦	大阪商工会議所	シンポ7	国内
	7月20日	拠点推進会議(平成30年第2回)	順天堂	会議44	学内
	7月20日	第8回COI拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議45	国内
	7月24日	サイトビジット	立命館大大阪いばらきキャンパス	会議46	国内
	8月8日	第3回連携推進会議	順天堂	会議47	国内
	8月30日	機関紙ACTIVE4号	立命館大学	報道12	国内
	8/30-8/31	JSTフェア2018	東京ビッグサイト	出展10	関東
	10月12日	フェーズ2報告書	JST	書類8	関東
	10月19日	第9回COI拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議48	国内
	10/25-10/26	第1回COI学会	大阪大学中の島キャンパス	会議49	国内
	10月29日	第4回連携推進会議	立命館大学東京キャンパス	会議50	国内
	11月16日	第10回拠点統括会議	順天堂・立命館TV会議	会議51	国内
	11月16日	文京博覧会(ロコモニター)	文京区シビックセンター	出展11	関東
	11月24日	第64回日本宇宙航空環境医学会大会	順天堂さくらキャンパス	シンポ8	関東
	11月28日	COI第7回健康医療データ連携委員会	弘前大学	会議52	国内
	11月29日	中間評価会	JST	会議53	関東
	11月30日	技術体験会	文科省情報ひろば	出展12	関東
	12月26日	拠点推進会議(平成30年第3回)	順天堂	会議54	学内
	12/27-12/28	第5回連携推進会議	順天堂	会議55	国内
	1月25日	Limitless	東京藝術大学	出展13	関東
	1月31日	平成31年度計画書	JST	書類9	関東
	2月4日	学内委員会	順天堂	打合124	学内
	2月5日	厚労省東海北陸局多様な社会資源を活かした 地域包括・地域共生 ～産官学で取り組む地域包括ケアとヘルスケア産業の創出・活用～	名古屋コンベンションホール	シンポ9	国内
	2月12日	拠点面談	JST	会議56	関東
	2月19日	第2回情報交換会	お茶の水女子大	会議57	関東
	2月22日	第4回東郷町地域協議会	東郷町役場	会議58	国内
	3月4日	第1回薬エシンポジウム	電気通信大学	会議59	関東
	3月14日	若手連携研究ファンドヒアリング	JST	会議60	関東
3月25日	若手研究者交流会(第2回)	順天堂	シンポ10	国内	
その他		企業打合せ(日立、ニッピ、UHA味覚糖、NECほか)9回 立命館大学連絡会16回 健康見守りサービス連絡会10回 弘前大学連絡会13回 東京芸術大学連絡会11回 北海道大学連絡会2回 東急・季美の森連絡会3回 高砂熱化学連絡会1回	主としてCOIプロジェクトルーム	打合 125-190	関東9 国内16 国内10 国内13 関東11 国内2 関東3 関東1

## (2) 私立大学研究ブランディング事業

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」における2016年度「脳の機能と構造を視る」及び2017年度「スポーツ科学による“Health Creation”」の採択を機にURAが支援している。主な支援内容及びスケジュールは下表のとおりである。

年度	2017				2018				2019	
	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
シンポジウム				成果報告会	東邦大学		駒澤大学 明治大学	成果報告会		
セミナー					多次元 イメージン グセミナー		多次元 イメージン グセミナー  臨床脳画像 解析研究会	持続可能な 高齢社会 フォーラム  市民公開 講座		
会議	28年度事業 運営委員会		28年度事業 運営委員会			28・29年度 事業運営 委員会				28・29年度 事業運営 委員会
広報	HP開設					「研究力が 高い大学」	毎日新聞 広告		HPリニュー アル開設	BS番組撮影 SDGs動画 撮影
調査分析	アンケート 調査				論文分析 研究力分析		研究力分析			

シンポジウムについては、2017及び2018年度末に開催されたキックオフシンポジウムおよび事業成果報告会（Ⅲ-2-⑦[次ページ]）において運営の支援を行ったほか、他大学の採択事業シンポジウムにも参加した。

セミナー（Ⅲ-2-⑧[次ページ]）については2016年度採択事業分4件、2017年度採択事業分1件が開催され、ポスター制作、受付、事前告知、写真撮影、会場設営等を行った。

広報面では、新聞やTV等のメディア媒体を用いた活動を企画・実施したほか、ブランディング事業HPの維持管理を行っている。

2018年度には毎日新聞の一面広告（Ⅲ-2-⑨[次ページ]）として、本学の服部信孝教授と青木茂樹教授の対談形式をとり、パーキンソン病や認知症といった疾患からアスリートのパフォーマンスについてなど、幅広い対象を用いた最先端の脳科学研究を紹介した。一方、本年度は2020東京オリンピックの前年度であり、順天堂大学が取り組むスポーツ科学とそれに関連する医学研究を一般社会にアピールする機会となるため、これを題材としたドキュメンタリー番組の制作を企画し（Ⅲ-2-⑩[次ページ]）、11月17日にBSテレビ東京で放映された。また文書・広報課と連携し、SDGsの取り組みについての動画制作も企画し、Times Higher Education社による大学紹介ページにおいて公開している。

(Ⅲ-2-⑦) シンポジウム・事業報告会のポスターと会場風景

平成28年度文部科学省選定  
**順天堂大学**  
**「私立大学研究ブランディング事業」**  
**キックオフシンポジウム**

選定事業名  
**脳の機能と構造を視る。多次元イメージングセンター**

平成29年**3月21日(火)** 14:00~17:30

順天堂大学 本郷・お茶の水キャンパス センチュリータワー北4階

**第1部**  
 14:00 挨拶:新井 一(学長)  
 14:20 基調講演1:藤田真直氏 (National Institute of Health (NIH))  
 15:05 基調講演2:藤田浩幸 大学院医歯学総合研究科 教授  
 16:50 休憩

**第2部**  
 16:05 ポスター発表(本学選定事業グループによる各グループ1冊)  
 17:05 講演:外観評価委員からのコメント  
 17:30 閉会挨拶:内藤久士 大学院理工学総合研究科 教授  
 17:45 懇親交流会 11階中ホール

順天堂大学  
**研究ブランディング事業成果報告会**

H28選定事業 脳の機能と構造を視る 多次元イメージングセンター  
 H29選定事業 スポーツ科学による「Health Creation」代謝科学研究  
 を基軸に世界展開するブランディング事業

平成31年**3月19日(火)** 会場:順天堂大学  
 14:00~17:45 本郷・お茶の水キャンパス  
 センチュリータワー北4階 教室

14:00 挨拶:新井 一(学長)

**第1部** H28選定事業報告  
 14:10 プロジェクト連絡報告(各10分)  
 14:50 講演:外観評価委員からのコメント(各5分)

**第2部** H29選定事業報告  
 15:10 口頭発表:事業推進担当者からの進捗報告(各10分)  
 16:50 講演:外観評価委員からのコメント(各5分)

**第3部** パネルディスカッション(各20分)  
 17:10 ①ブランドを作る(大学の視座から打ち出す目的)  
 ②ブランドを育てる(研究内容・成果の効果的な発信)  
 ③ブランドを伝える(ブランドイメージへの具象・評価の獲得)  
 コーディネーター:内藤 久士 スポーツ健康医科学研究所長・研究科長・学部長  
 パネリスト:担当発表者・評議員  
 17:40 挨拶 木原 繁紀 学長特別顧問  
 17:45 懇親交流会 センチュリータワー11階



(Ⅲ-2-⑧) HP での研究会・セミナー周知

第28回  
**東京臨床脳画像解析研究会**  
 2018.11.07 (水) 18:20~  
 順天堂大学センチュリータワー

順天堂大学 私立大学研究ブランディング事業  
**脳の機能と構造を視る:  
 多次元イメージングセミナー**  
 2018年10月22日 18:00~19:30  
 順天堂大学第2教育棟 401号室

順天堂大学 私立大学研究ブランディング事業  
**脳の機能と構造を視る。多次元イメージング セミナー**  
 2018年5月25日 17:30~19:00  
 順天堂大学センチュリータワー北3階 306号

(Ⅲ-2-⑨) 毎日新聞の一面広告

順天堂大学の挑戦

**パーキンソン病や認知症の予防・治療  
 最先端の脳科学研究を先導**

●●● 大学院医歯学総合研究科 脳神経学教育 大学院医歯学総合研究科神経医学 青木理樹教授 ●●●

順天堂大学 保健医療学部  
 脳神経学教育研究センター

(Ⅲ-2-⑩) ドキュメンタリー番組の企画

BSテレ東 一般の人

日経ビジネス 企業・職人気

BSテレ東 特別企画番組(54分)を制作・放送

日経ビジネス 番組のレビューを見開き(2ページ)で掲載

様々な経済コンテンツを放送だけでなく、二次利用(DVD等)で有効活用が可能です。  
 また、コンテンツの目録化によりトップビジネスマンへのリーチを確実します。

研究ブランディング事業の HP は、本年にリニューアル公開され（Ⅲ-2-⑩）、正式に大学 HP の下で管理されることになり、全学的プロジェクトとしての位置づけが明確になった。また、管理がそれまでの情報センターから研究戦略推進センター（URA）に移行したことにより更新の自由度が増した。これにより、関連したプレスリリース等のニュースが自動配信されるようになるなど利便性が向上し、更新頻度・アクセス頻度ともに順調に伸びている（Ⅲ-2-⑪[次ページ]）。

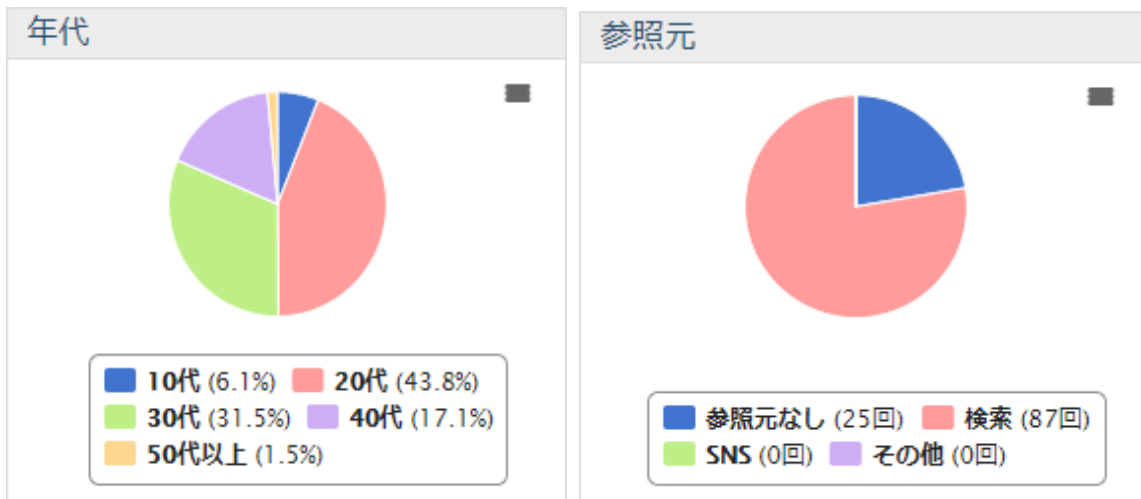
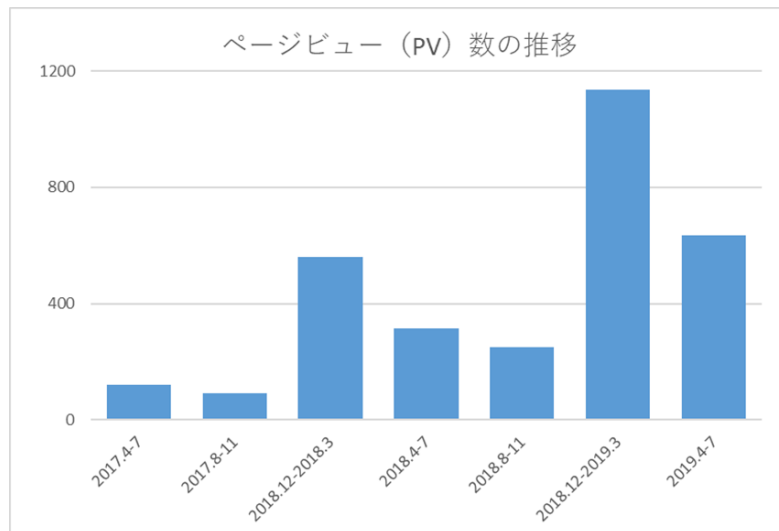
（Ⅲ-2-⑪）リニューアル後のブランディング HP

The image shows a screenshot of the Juntenno University Research Branding Project website and two flowcharts. The website screenshot includes a navigation menu on the left with categories like 'About Juntenno', 'Undergraduate/Graduate School', 'Research Activities', 'Global', and 'Juntenno University NEWS'. The main content area features a header '順天堂大学研究ブランディング事業' and a news section with dates and titles such as '2019.06.14 (FRI) フランディング' and '2019.06.04 (TUE) フランディング'. A sidebar on the right lists '研究活動' (Research Activities) with sub-items like '研究News & Event', '研究業績', '学術誌掲載', etc.

The first flowchart, titled '組織' (Organization), '研究活動' (Research Activities), and '特徴・成果' (Features and Results), shows the '順天堂大学' (Juntenno University) structure on the left, including '医学研究科・老研センター', 'スポーツ健康医科学研究所', '神経科学関連 基礎講座', and '神経科学関連 臨床講座'. The central '研究活動' section shows a flow from '神経変性' (Neurodegeneration) and '認知症' (Dementia) to '脳血管障害' (Cerebrovascular disease) and '発達障害' (Developmental disorders), leading to 'トップアスリート' (Top athletes) and '健常者' (Healthy individuals). It highlights 'サンプルに応じたイメージング技術の確立と情報の統合' (Establishment and integration of imaging technology) and '神経回路' (Neural circuitry). The '特徴・成果' section on the right lists '「脳の機能と構造を視る」' (Visualizing brain function and structure), '全学的な取り組み 病態脳から超健康脳まで' (University-wide approach from diseased brain to super-healthy brain), '脳高次機能の解明 神経疾患の診断・治療法の開発' (Elucidation of brain higher-order functions, diagnosis and treatment development of neurodegenerative diseases), and '多次元イメージング コンソーシアム' (Multidimensional imaging consortium).

The second flowchart, also titled '組織', '研究活動', and '特徴・成果', shows the '順天堂大学' structure on the left, including 'スポーツ健康医科学研究所', 'スポーツ科学', 'スポーツロジックセンター', '代謝科学', '運動の診断と治療研究センター', 'ゲノム科学', '国際教養学部', and 'グローバルヘルス'. The central '研究活動' section shows a flow from 'アスリートコホート' (Athlete cohort) and '有疾患者コホート' (Diseased cohort) to '代謝変化' (Metabolic changes) and 'バイオマーカー' (Biomarkers), leading to '中高齢者コホート' (Middle-aged cohort) and 'アジア共同研究 コンソーシアム' (Asia joint research consortium). The '特徴・成果' section on the right lists '「Health Creation」' (Health Creation), '本学ならではの、アスリートから疾患患者まで両極の研究を融合' (University-specific, fusion of research from athletes to diseased patients), '予防概念の転換を図る 「発症リスクさえも未然に防ぐ」' (Transition of prevention concept, preventing onset risk before it occurs), and '方法論・成果の国際展開' (International expansion of methodology and results).

(Ⅲ-2-⑫) アクセス解析結果 (2019. 7. 31 現在)



研究ブランディング事業の HP のメインページのアクセス解析 (Ⅲ-2-⑫) からは、例年 2,3 月にアクセス数が伸びることが示されたが、2018 本年度の 12 月～3 月のアクセス数は、2018 年度同時期のアクセス数に比べ 2 倍以上となる 1136 回であった。HP リニューアルによりアクセス元の詳細な解析・予測も可能となり、5～7 月の集計によるとブランディング HP のビューアーは 8 割近くが検索 (Google 検索) により訪れることが分かった。また年代別の解析では約半数が 20 代、3 割が 30 代と若手が多いという結果が得られた。新規・再訪の分類からは、新規ユーザーも半数近く (45.1%) いることが分かった。

研究力調査では、エルゼビア社およびクラリベイト・アナリティクス社への外部委託により論文サイテーション分析 (2013-2017 年の 5 年間) が行われたのを受け、ブランディング事業メンバーの研究力について把握するとともに今後の課題を検討した。

2016 年度事業については、発表論文の被引用インパクト (FWCI) が 1.67 と高い結果

を得ていることが分かり、またトピック分析では「拡散 MRI」が第一位のトピックで論文数が多く、続いて「水頭症」「パーキンソン病」「レビー小体」などであった。各トピックにおける論文数の著者別順位では、本学の事業メンバーから 5 人が世界で 10 位以内にランクした。

2017 年度事業においても、発表論文の被引用インパクトは 1.32 と世界平均よりも高く、トピック分析では「アスリート、遺伝型、エクササイズ」での発表が最も多いことが分かった。このトピックでは本学事業メンバーが論文数の著者別順位で世界 7 位となっている。筋肉やエクササイズに関連したトピックのほかに、ミトコンドリア病や長寿といったトピックも上位にランクし、2017 年度事業のコンセプトを概ね反映した結果となった。分析結果は一部ブランディング HP にも掲載し (Ⅲ-2-⑬)、ブランディング各事業の研究力として紹介している。

### (Ⅲ-2-⑬) 研究力分析を紹介するブランディング HP のページ



順天堂大学  
大学・大学院  
JUNTENDO

本学について  
About Juntendo

学部・大学院  
Undergraduate/Graduate School

研究活動  
Research Activities

国際交流  
Global

順天堂大学NEWS  
Juntendo University News

お問合せ アクセス 寄付 language

## 脳の機能と構造を視る - 研究力

Scolarly Output	784
Field-Weighted Citation Impact	1.67
International Collaboration	123

メンバーの全論文 (2013~2017 Scopusに収録) を対象としたCitation指標




対象論文から抽出されたキーワード (左) 対象論文を引用した論文の国と被引用インパクト (右)

円の大きさは論文数、色の濃さはインパクト (Field Weighted Citation Impact: FWCI) を表す

研究活動

- 研究News & Event
- 研究業績
- 産学官連携
- 研究倫理
- 研究者の首脳
- 研究組織
- 研究戦略推進センター
- 臨床研究・治験センター
- 革新的医療技術開発研究センター
- 健康総合科学先端研究機構 (JARIHES)

順天堂大学研究ブランディング事業

脳の機能と構造を視る

スポーツ科学による"Health Creation"

・脳の機能と構造を視る - 研究力

### 3. 研究広報支援

#### (1) 概要

順天堂大学は URA が導入される以前には、法人としての研究成果のプレスリリースは行われておらず、2012 年から URA の支援によるプレスリリースを開始した。同年の 2 報から、2018 年には年間 30 報をリリースできるようになり、一般社会に向けて順天堂大学発の研究成果をわかりやすく着実に発信できる体制になった。2019 年までに合計 109 報の研究成果プレスリリースを行った。

医学部を有する私立大学のうち、研究成果の積極的なプレスリリース支援体制があるのは、順天堂大学、慶應義塾大学、関西医科大学、近畿大学の専門的なスキルを有する URA 体制のある 4 校のみである。医学部発の報告数 (2018 年) は順天堂大学 (29 報)、慶應義塾大学 (33 報)、関西医科大学 (13 報)、近畿大学 (6 報) となっており、トップクラスにある (参考: 東京大学医学部 26 報)。他の私立大学医学部は、広報課が年間数報程度の研究者の難解な原稿をそのまま掲載する形をとっている。

研究成果のプレスリリースのうち、順天堂ブランディングにふさわしく、質の高い論文を厳選して英文化し、海外配信サービスを利用して世界各国へのプレスリリース配信も開始した。配信後の解析では英語圏外のニュースにも JUNTENDO 発の成果が取り上げられている。

なお、研究広報としては、研究成果プレスリリースに加え研究ニュースや順天堂 HP に研究活動 (研究室や研究者の記事) の掲載 (Ⅲ-3-①) や、紹介動画もインターネットで見られるようにした。

#### (Ⅲ-3-①) 順天堂大学 HP による研究成果のプレスリリース一覧



The screenshot shows the Juntendo University website's 'Research Activities' page. The navigation bar includes 'JUNTENDO | JUNTENDO UNIVERSITY' and various utility links. The main menu highlights 'Research Activities' (研究活動). Below the menu, there's a banner for 'Research Activities' (研究活動) featuring a photo of researchers. The breadcrumb trail is 'トップ > 研究活動 > 研究情報 > プレスリリース'. The 'Press Release' (プレスリリース) section is active, showing a filter for 'Year' (年度別) set to 'Select' (選択してください). Below the filter are buttons for 'Latest Information' (最新情報), 'Research News' (研究ニュース), 'Press Release' (プレスリリース), 'Research Pickups' (研究ピックアップ), 'Research Events' (研究イベント), 'Research Funding Data' (研究費採択データ), and 'Research Achievement Data' (研究業績データ). At the bottom, there's a date '2016.11.16' and a news snippet about malaria research: '薬剤耐性マラリア対策の画期的研究ツールを開発～ミューターでマラリアの定着を逃す～'.



<p>2016.10.11 プレスリリース</p>		<p>病原体が免疫から逃れて寄生する仕組みを解明 ～結核菌のヒト好中球による貪食と殺菌回避の分子メカニズム～</p>
<p>2016.10.07 プレスリリース</p>		<p>記憶を思い出す際の脳の新たな仕組みを解明 ～大脳皮質葉の各皮質層がそれぞれ担う記憶の情報処理～</p>
<p>2016.10.06 プレスリリース</p>		<p>肺炎球菌毒素による死亡を回復する薬剤を発見～気管支喘息治療薬のドラッグ・リポジショニングへ～</p>
<p>2016.10.05 プレスリリース</p>		<p>アルツハイマー病のフクセン療法副作用の原因を解明 ～老人斑の除去が毒性オリゴマーの増加に～</p>
<p>2016.09.16 プレスリリース</p>		<p>多発性硬化症の発症にはヨーネ菌が関与する可能性 ～乳菌の経口摂取がリスクになる～</p>
<p>2016.08.01 プレスリリース</p>		<p>太ってなくても生活習慣病になりやすい人の特徴が明らか ～筋肉の質の低下が原因である可能性～</p>

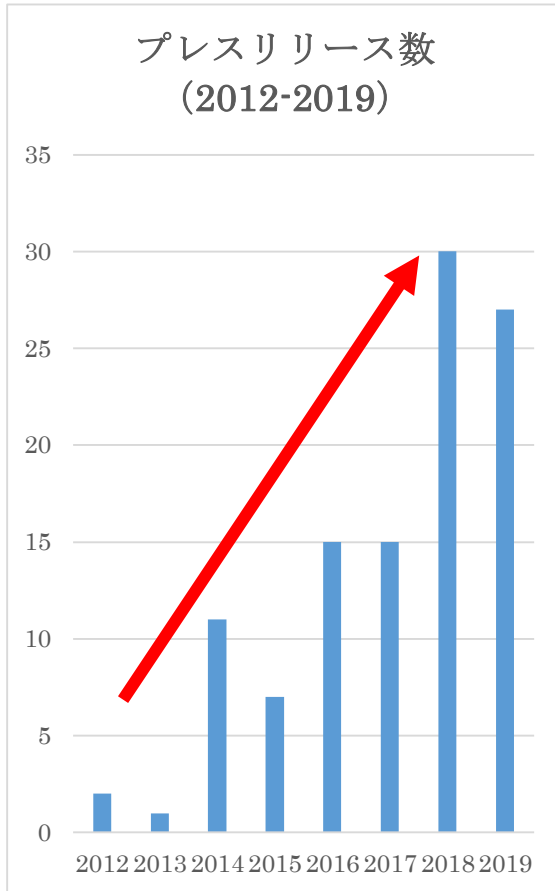
## (2) URA 支援成果のポイント

- URA 導入から研究成果リリースが始まり、年間約 30 報の発信ができる体制
- 医学部発の研究成果リリースの発信数は国公私大のなかでもトップクラス
- 英文リリースも開始し JUNTENDO 発のニュースが英語圏外でも確認
- ブランディング力向上のため研究紹介動画や SNS の活用も開始

報告数 0 から年間 30 報程度発信できるようになり (Ⅲ-3-②【次ページ】)、2012 年～2019 年の 7 年間で 109 報の報告を行っています。プレスリリースした研究成果はアーカイブ化しており HP で一覧として掲載しています。

なお、研究成果リリースは、順天堂 HP へ掲載することにより大学ブランドの要素となるだけでなく、研究活動の情報としてステークホルダー（ファンディング機関、研究者、受験生、一般社会）へのアピールツールとして重要な位置を占めています。

### (Ⅲ-3-②) 報告数の伸び



報告数は右肩上がり

2018年は年間30報で前年比2倍

2019年も26報(10月末)で30報ペース

- [News #67](#) 早期乳癌は癌管内ヒプシス阻止剤に分泌産物の抗癌薬投与が影響を及ぼす
- [News #66](#) 血管のオートファジー機能低下が動脈硬化誘発や大動脈瘤形成を促進する
- [News #65](#) 血液のがん細胞が蓄積する分子メカニズムを解明
- [News #64](#) がん細胞のエネルギーを枯渇させる武がん剤の発見
- [News #63](#) 生活習慣病の発症機序に導く新たな代謝制御メカニズムを解明
- [News #62](#) 慢性腎臓病への悪化を抑制する鍵となる分子を同定
- [News #61](#) 産けた女性で胎内が足りない人ほど高血圧のリスクが高い
- [News #60](#) 新ドライアイ治療薬により「ドライアイ確定」患者が3割増
- [News #59](#) マリファ第一発癌薬の劇性原虫がアフリカに出現していることを発見
- [News #58](#) コーキング肉類の毒性低減に関するXBP1の同定
- [News #57](#) パーキンソン病のレヒ-小体形成メカニズムを解明
- [News #56](#) タンパク質の鎖の鎖の位置は細胞外環境発生頻度に大きく関わる
- [News #55](#) ごく少量のアレルゲンによるアレルギー性気管支炎の発症機序を解明
- [News #54](#) 「未知の3D」を生み出す謎の仕組みを解明！
- [News #53](#) ロイコトリエンB<sub>4</sub>受容体の構造
- [News #52](#) カフェインとその代謝産物がパーキンソン病誘発のバイオマーカーになる
- [News #51](#) 3つの小分子化合物を用いてヒトIPS細胞の分化能力を促進する基盤技術を開発
- [News #50](#) 子宮体がん発症よりリンパ管転移を見分けるバイオマーカーの発見
- [News #49](#) プロバイオティクス飲料の継続摂取が日本人2型糖尿病患者にもたらす効果
- [News #48](#) 角質上皮層内の発癌メカニズムを解明
- [News #47](#) なじみ深さや目新しみの印象を支配する神経信号を発見！
- [News #46](#) 世界初！オレキシン受容体拮抗薬のせん后平均効果を実証
- [News #45](#) パーキンソン病の発症早期に特徴的な変化を示すアシルカルニチン群を特定
- [News #44](#) 取組みの進行を抑えることに成功
- [News #43](#) 神経軸索伝達性による神経機能不全の改善に成功
- [News #42](#) ミトコンドリアに關わる遺伝子が神経変性を起こす機序を解明

### (3) 研究広報の波及効果

研究成果のプレスリリースは、文部科学省記者会への配布やメディア配信サービスの利用を通じて、各メディアのもとへ届けられる。その結果、メジャー誌や地方紙の新聞に取り上げられ、順天堂大学の名前と研究成果の内容が一般社会に届くことによりブランド力の向上に資している。

日経新聞をはじめ、朝日、読売などメジャー誌に順天堂大学の名前と研究内容が掲載されている(Ⅲ-3-③[次ページ])。またメジャー誌だけでなく、地方紙では紙面を割いて大きく取り上げられることも多く、地方に住む受験生の親や同窓生など支援者に順天堂の名前を届けることができる。

(Ⅲ-3-③) 新聞メジャー紙での掲載

新聞メジャー誌に研究成果の発信元として  
順天堂大の名前が出ることは広報効果大



また、科学新聞や日刊工業新聞などの業界紙は、研究成果の内容を詳しく取り上げ、高頻度で記事となるため、省庁、ファンディング機関や製薬企業、産業界等のステークホルダーに活動状況を知らしめる効果が高い。

#### (4) 各メディアの利用

新聞だけにとどまらず、Web メディア掲載を目的にした配信サービスの利用では、多くのWeb サイトへの掲載につながっている。また SNS を通じて波及効果もあるだけでなく、SNS を通じた情報発信も進めている (Ⅲ-3-④)。

##### (Ⅲ-3-④) Web メディア掲載等

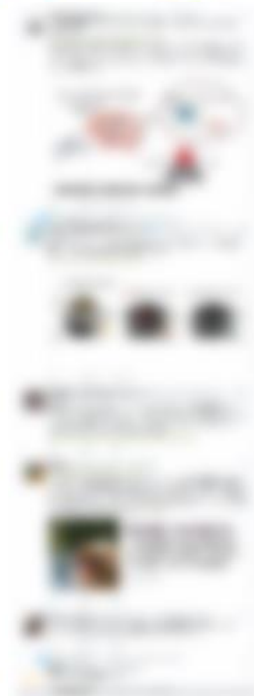
プレスリリース配信サービス (PR TIMES) の利用により  
1 配信で200 件以上のサイトに掲載されることもあり  
Webメディアへのアピール効果、波及効果が高い



#### ネット記事の波及効果



#### ツイッター上での展開

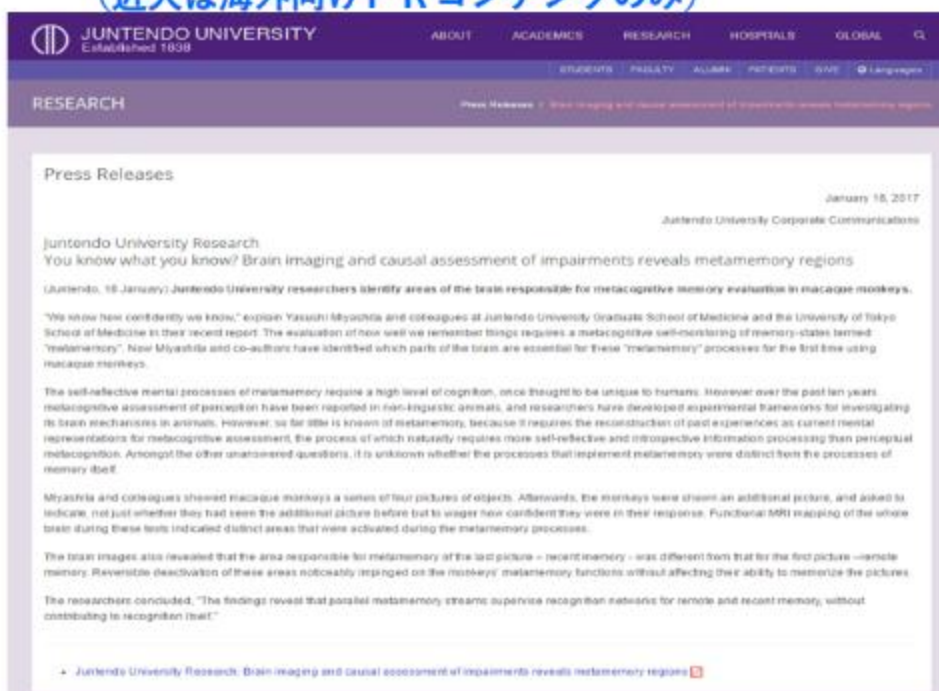


→ネット記事はSNSでさらに拡散、関心ある層へ

## (5) 海外への発信と波及効果

順天堂ブランドをアピールできる研究成果を英文にして、English ページの Research コンテンツとして掲載を開始した (Ⅲ-3-⑤)。英文リリースは私立大学医学部では順天堂大学と慶應大学しか実施していない。また海外の配信サービスを利用することにより数万サイトへの配信先に届けることができています。

→English ページにResearch のコンテンツとして掲載開始  
私立医科大では慶應大、順大のみ、  
(近大は海外向けPRコンテンツのみ)



### Headline Impressions

Total Headline Impressions 35644

PRWeb/News Aggregators配信サービスの利用

5日間で3万5千件の海外配信先へ

(Ⅲ-3-⑤) 海外への発信 (英文リリースを開始)

配信されたリリースが海外の各メディアのサイトに掲載され、オリンピック関連以外で Juntendo の名前がみられるようになってきた (Ⅲ-3-⑥)。

(Ⅲ-3-⑥) 海外への展開

海外の各メディア→google newsで「[juntendo](#)」と検索するだけで、研究成果・プレスリリース、記事が多くヒットするようになった。  
>海外からみた[大学評価](#)の参考へ



配信されたリリースをもとに海外のニュースとして取り上げられ、記事化されることでJUNTENDOの名前がワールドワイドに展開された(Ⅲ-3-⑦)。このように世界に向けた研究成果が取り上げられると海外研究者へのアピールや大学ランキングなどの評判向上につながる。

### (Ⅲ-3-⑦) JUNTENDO のワールドワイドな展開

遺伝性難聴を幹細胞で治療へ (Juntendo University)のニュースは世界中を駆け巡った



英語

フランス語

トルコ語

アラビア語

"جوتيندو"

スペイン語

中国語







## 5. 大学間連携支援

本学は国内外の数多くの大学等と研究活動に関する連携協定を締結しているが、その内で下表については JURA の活動をベースに交流を実施している。

協定先	締結日	協定内容
星薬科大学	2015年9月29日	星薬科大学と順天堂大学との包括的連携に関する協定
電気通信大学	2016年12月1日	国立大学法人電気通信大学と順天堂大学との学術連携交流に関する協定
お茶の水女子大学	2017年10月16日	国立大学法人お茶の水女子大学と順天堂大学との学術交流に関する協定
カリフォルニア大学デービス校	2019年2月27日	AGREEMENT NUMBER A19-3864 JUNTENDO UNINERSITY and THE REGENT OF THE UNIVERSITY

2016年12月には3大学の幹部はじめ URA により次のタイトルで文部科学省において記者会見を行った。

電気通信大学・順天堂大学・星薬科大学による学術連携交流協定の締結  
～「ネットワーク型 URA」による新たな価値創造～  
(組織間異分野連携体制の構築)



【文部科学省記者室・登壇者】

(奥から)

電気通信大学 森倉 URA

電気通信大学 三橋理事

順天堂大学 木南学長特別補佐

電気通信大学 福田学長

星薬科大学 田中学長

順天堂大学 菅原 URA

この連携協定締結以降、3大学の URA 活動を基盤として研究交流が進められた結果、2019年には日本科学技術振興機構(JST)未来社会創造事業「超スマート社会の実現」領域の探索研究の一部として、3大学連携による研究テーマが採用されている。

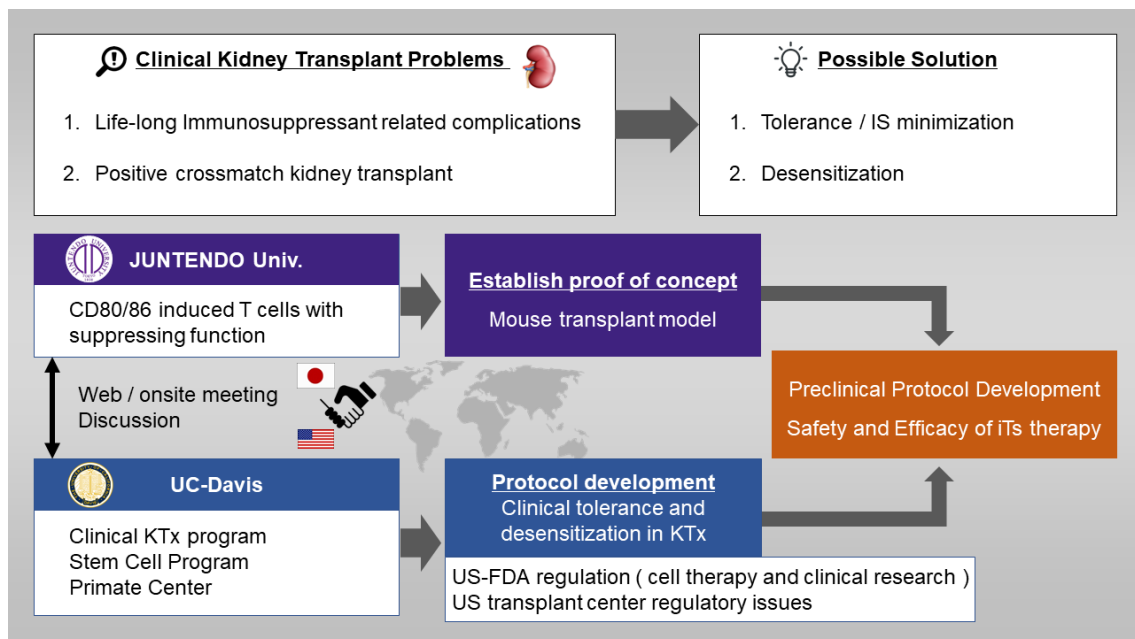
上記のほか、電気通信大学と本学とは両大学 URA の仲立ち・伴走による研究交流として、現在、4件のプロジェクトが進行中であり、科研費申請や共著論文作成に至る成果が出始めている。

また、お茶の水女子大学の研究者を対象として、JURA から本学の研究に関するプレゼンを実施し、共同研究シーズの発掘に向けた活動を行っている。

さらに、星薬科大学には本学から客員研究員の派遣を行い、共同研究の可能性を検討している。

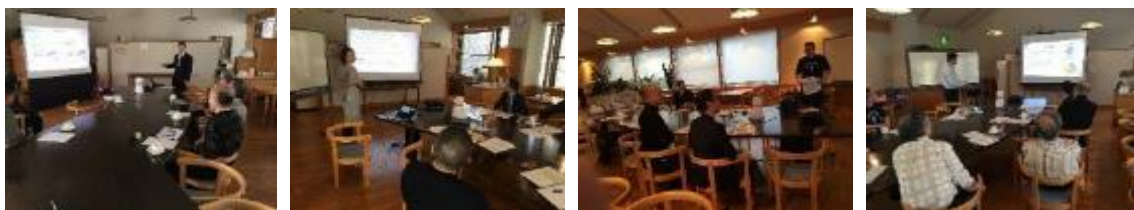
海外の大学との交流については、カリフォルニア大学デービス校（UC Davis）との間において、移植免疫の細胞療法に関する提携が進められている（Ⅲ-5-①）。これは本学発の治療技術を米国で展開することを目的とし、アメリカ食品医薬品局（FDA）承認の基準に沿った治験プロトコルの確立を目指すものである。JURA による支援として、共同研究契約に関する調整、本年 7 月までに計 9 回行われた電話会議への同席および議事録の作成、報告書の取り纏めを行った。米国での資金調達（VC からの投資や米国政府系グラントへの申請）も将来的な視野に入れ、情報収集・交換を行っている。

### （Ⅲ-5-①） UC Davis との共同研究概要



## 6. 研究戦略会議への参画

2017年以降、本学セミナーハウス（軽井沢）において研究戦略会議（合宿研修）を定期的（8月、2月）に開催して、各URAから戦略的なプレゼンを行い、学長特別補佐、研究戦略推進センター研究戦略室長及び総務局長等との意見交換を実施している。



これまで5回開催された研究戦略会議におけるJURAによるプレゼン資料の例は以下のとおりであり、本報告書作成に当たり各々に解説を付記している。

### (1) 外部資金獲得を目指した研究成果リリースの効果とその活用

研究成果を一般にわかりやすく伝えることは、研究者はおおよそ不得手である。URAが間に立ってプレスリリースの記載や図の書き方の指導や支援をすることは、すなわち採択されやすい申請書作成につながる。研究者や大学はリリースにより注目を浴びるだけでなく、ファンディング機関へのアピールにもつながり、JSTやAMEDの大型研究資金の獲得への近道でもある。事実、プレスリリース支援を経験した研究者は科研費の獲得率が高い。

プレスリリース支援は知名度の向上のみならず、URAと研究者の信頼関係構築に資する。

## プレスリリースの効果とは

### 知名度UP

#### ・大学のアピール（機関としてのメリット）



- 一般への知名度（ブランド力UP!）
- ステークホルダーへのアピール
  - ・対 役所、ファンディング機関（ロビー活動ネタにも）
  - 患者、病院、製薬企業
  - 受験生、院生、親
- 大学評価・ランキング
- 検索結果（日・英）

#### ・研究・研究者としてのアピール（研究者としてのメリット）



- 研究の実績アピール
- 研究分野の牽引性
- 研究者へのスポットライト（モチベーションUP!）

# プレスリリース作成過程は研究者にとって 科研費採択へのよいトレーニングになる

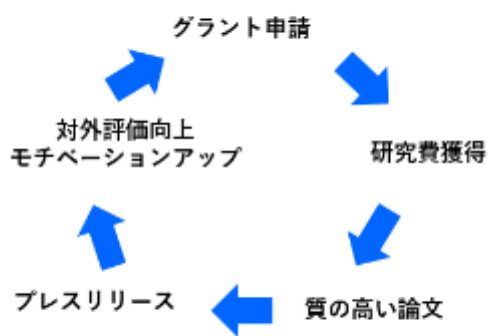
## プレスリリース作成過程



申請書にリサイクル  
→科研費採択◎

## 大型グラント採択数増に向けて

### 正のサイクルへ



- リリース経験者をターゲットにした声掛け  
→ 科研費基盤B、AMED、JST グラント申請へ
- リリース件数のアップ  
(さらなるアピール)  
→ 基盤B申請者・論文ベースからの声掛け、  
スポーツ、看護分野にも
- 研究イノベーション  
(成果の利活用)  
→ ネットをもとに、異分野連携、共同研究のマッチング

**知名度 大学評価 ブランド力**

一般への活動認知度が上がることによる土台効果

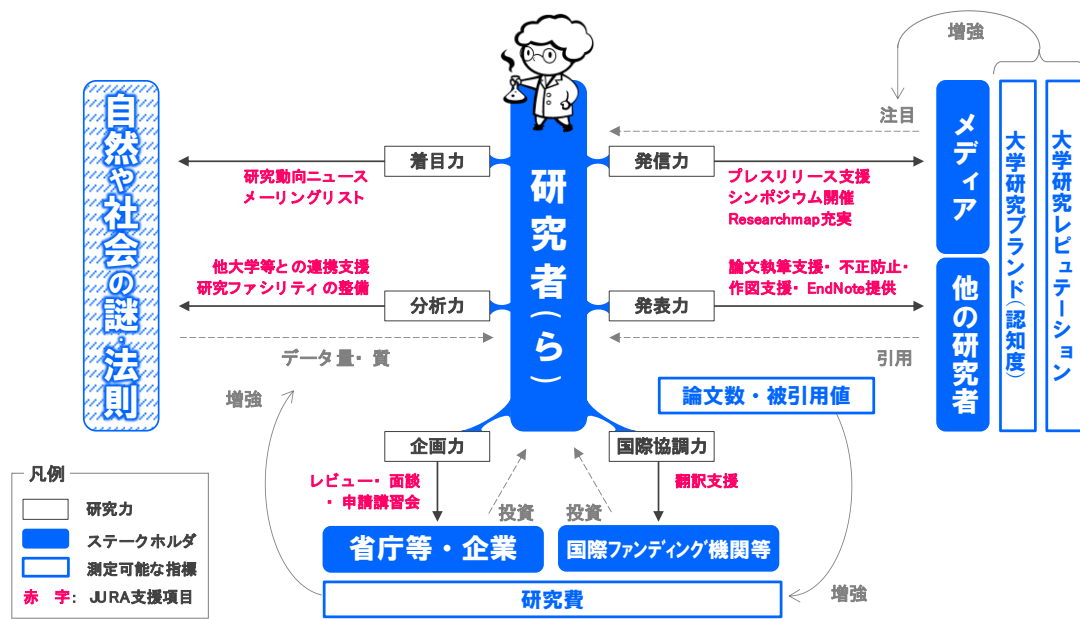
研究成果リリースを土台にした大型グラント採択数増につながる正のサイクルを回すことに URA として注力していく予定である。

## (2) 研究者の研究時間を確保するためのサービス

医療系研究者の研究時間の割合は、2002年46.0%から2018年29.8%と大幅に落ち込んでおり、理学や工学分野の数値と比してあまりにも少ない（2002年：理学56.9%，工学48.2%；2018年：理学49.3%，工学38.2%；文部科学省公表データ 本年6月26日）。

そこで、研究者の時間を確保するためのサービスの立案から運営を念頭に企画業務を進め、学内の研究イベントやツールをいち早く周知するメーリングリスト（JURML）の運営、論文作成支援ソフトウェアEndNoteの全学配布、JST提供研究者データベースresearchmapの整備、ポスターなどの作図支援を中心としたサービスを展開中。また、科研費等の申請書作成支援においては、申請先専門分野の解析、不採択評価スコア分析、申請書等の体裁仕上げ等を通じて研究者の研究時間確保に資するサービスを提供。

### 全URAのサービスのマッピング



## セミナーなど学内研究イベントや研究ツールの周知、順天堂大学発の最新論文を紹介するメーリングリスト（JURML、配信先1270アカウント）の配信例

1件	の通知があります。
受付#	20180624-1
題名	第4回環境医学研究所 第81回研究推進委員会第7セミナー「腸脳リワマチのゲノム解析とゲノム機能学」
投稿	<a href="https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labok/karivno_jgaku/lecture/81st.html">https://www.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labok/karivno_jgaku/lecture/81st.html</a>
開催日	2018年9月19日 水曜日
時間	18:00
会場	医学部附属済生会病院 2号館8階 環境医学研究所 カンファレンスルーム
主催	順天堂大学大学院医学研究科 環境医学研究所 共催：順天堂大学大学院医学研究科
問合せ	環境医学研究所 (福田) <a href="mailto:hakken@juntendo.ac.jp">hakken@juntendo.ac.jp</a> TEL:047-359-3171
概要	タイトル：腸脳リワマチのゲノム解析とゲノム機能学 講師：国立研究開発法人 理化学研究所 生命医科学研究センター 副センター長 山本一寿 先生 概要：腸脳リワマチなどの多くの免疫疾患は、遺伝的遺伝子変異に環境要因などが加わりて発症する。遺伝要因に関しては、一塩基多型 (SNP) を中心に、ゲノムワイド関連解析 (GWAS) が確立し、多くの多因子疾患のリスク多型が明らかになってきた。しかし、これらの情報は、いまだに疾患の理解や創薬に十分に結びついていない。そこで、「ゲノム要因は疾患に対して因果関係を提示する」という遺伝学の原理に則ること、疾患に対する因果関係を明らかにする重要な方法論になりうることを期待している。

47 件受付

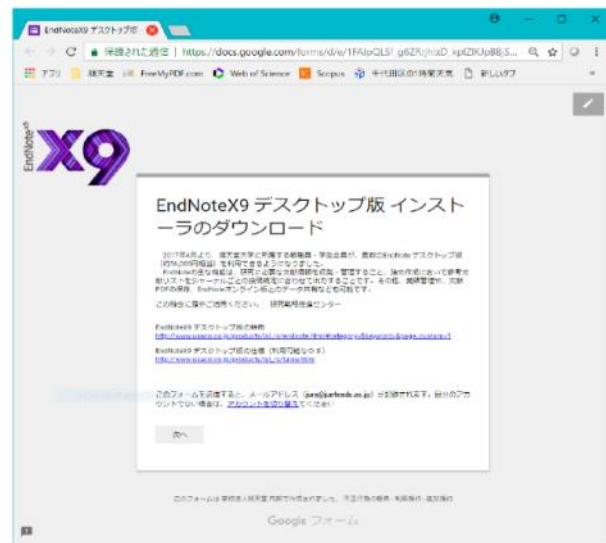
1件	の研究に関する通知があります。
受付#	20180619-1
発信者	藤田恵子
所属	環境医学研究所
職種	事務総務係
メールアドレス	<a href="mailto:te.fujida@juntendo.ac.jp">te.fujida@juntendo.ac.jp</a>
主旨	共同研究の相談 ***** 平成30年度環境医学研究所プロジェクト研究費集のお知らせ ***** 概要：主催するプロジェクト研究 (1)「難治性「かゆみ」の発症機序解明と予防・治療法開発の研究基盤構築」に参画する研究課題 (2) 環境医学研究所の従来からの研究課題 ① 環境因子 (環境汚染物質) と生体反応プロジェクト ② 疾患関連遺伝子の実質と環境因子プロジェクト ③ 性差医学と環境因子プロジェクト
内容	環境医学研究所 <a href="http://www2.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labok/karivno_jgaku/pe_benkyu.html">http://www2.juntendo.ac.jp/graduate/laboratory/labok/karivno_jgaku/pe_benkyu.html</a> 学内HP 研究戦略推進センターHP <a href="http://www2.med.juntendo.ac.jp/labok/entra/qa/syuyutsuka1.003/sat60/">http://www2.med.juntendo.ac.jp/labok/entra/qa/syuyutsuka1.003/sat60/</a> 応募締切：6月30日 (金) 留意：書いてご返事ください。 *****

22 件受付

15件	の順天堂大学発の論文をお知らせします。
題名	An Analysis of Patients with Anaphylaxis Treated by a Physician-Staffed Helicopter
著者名	Kondo A, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y
誌名	Air Medical Journal
年・巻	2018 (37)
キーワード	アナフィラキシー患者、ドクターヘリ (X Google翻訳)
タイプ	Article
リンク	<a href="http://doi.org/10.1016/j.amj.2018.02.005">http://doi.org/10.1016/j.amj.2018.02.005</a>
連絡先	Kondo A, Department of Acute critical Care Medicine at Shizuoka Hospital, Juntendo University in Shizuoka, Japan. E-mail: akondo069@gmail.com
題名	Augmented retractor technique for Billroth I anastomosis in totally laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer
著者名	Fukunaga T, Ishikashi Y, Oka S, Kanda S, Yube Y, Kohra Y, Matsuo Y, Mori O, Mikami S, Enomoto T, Otsubo T
誌名	Surgical Endoscopy and Other Interventional Techniques
年・巻	2018 ( )
キーワード	拡張型リトラクタ (ART) ; ビルロート吻合 総摘胃切除術 (ART) ; ビルロート吻合 総摘胃切除術 (X Google翻訳)
タイプ	Article in Press
リンク	<a href="http://doi.org/10.1007/s00464-018-6286-1">http://doi.org/10.1007/s00464-018-6286-1</a>
連絡先	Fukunaga T, Department of Gastroenterology and Minimally Invasive Surgery, Juntendo University Hospital, 3-1-3 Hongo, Bunkyo-ku, Japan. E-mail: <a href="mailto:tfukunaga@juntendo.ac.jp">tfukunaga@juntendo.ac.jp</a>

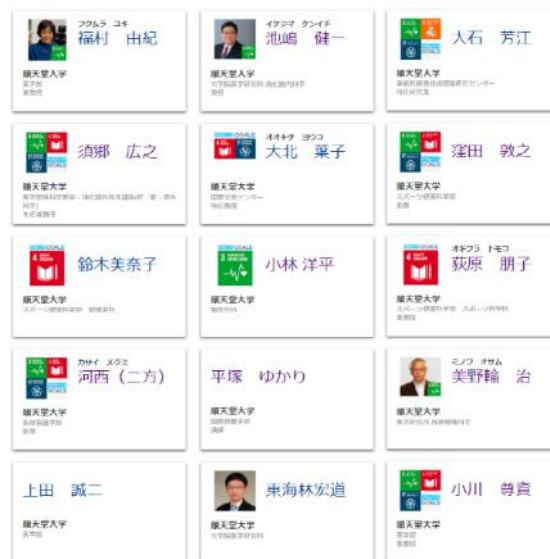
© JURA 2018

**論文に提示する引用文献の管理と引用番号の付与を支援するソフトウェア「EndNote」  
をウェブ上で全学的に配布できるサイトの作成と運営  
(利用者延べ約 1000 名)**



© JURA 2018

**JST 提供の全国的研究者データベース「researchmap」への情報入力ガイドの作成なら  
びに情報入力への支援サービスを展開**



© JURA 2018

## 研究に係るセミナー用ポスターの作成支援



## 科研費申請書のレビューの実例

科研費申請書のレビューは、初読みとなる審査員にとって、一読でもその内容が伝わるよう、文章構成から体裁にかけて読みやすくなるように調整するサービス。申請者は自身で繰り返し推敲する必要なく申請書が仕上がるため、研究時間が確保される。なお、この例示は採択を受けており、申請者の了解のもと、文章校正する際のコツの資料として学内公開した。なお、審査の観点となる学術的「問い」の考え方やスマートフォンやアプリを使った科研費の採択分析など、研究者に役立つ情報も同様に学内公開している。

【注】個人情報が含まれるため、意図的に解像度を低く掲載

掲載(萌芽) - 概要 2

これまでの研究活動と意図の経緯及び継続的研究としての意義 (本研究項目に必要とする理由)  
本研究項目は、これまでの学術の体系や方向を大きく変革、転換させる存在性を有する挑戦的研究を養成するものである。  
本題には、

- ① これまでの研究活動を踏まえ、この研究構型に立った背景と経緯
- ② 学術の現状を踏まえ、本研究構型が挑戦的研究としてどのような意義を有するか
- ③ 応募者の研究遂行能力の3点を叙述してください。

**調整**

→

掲載(萌芽) - 概要 2

これまでの研究活動と意図の経緯及び継続的研究としての意義 (本研究項目に必要とする理由)  
本研究項目は、これまでの学術の体系や方向を大きく変革、転換させる存在性を有する挑戦的研究を養成するものである。  
本題には、

- ① これまでの研究活動を踏まえ、この研究構型に立った背景と経緯
- ② 学術の現状を踏まえ、本研究構型が挑戦的研究としてどのような意義を有するか
- ③ 応募者の研究遂行能力の3点を叙述してください。

学内閲覧のみ取扱注意

下線・太字減らし

文言補足・削減 (青文字)

下線・太字減らし

スペース確保と読みやすさ確保のため、箇条書きを表化 → 各スペース分を段落間の行間確保に利用

文献の文字サイズを小さくしてスペースの確保



### (3) 科研費申請書レビューサービスの年次状況

科研費申請書のレビューは毎年審査結果が開示される5月から開始し、申請までの11月を中心に実施している。

レビューは申請書受領とコメント回答から成り、通常は電子メールを用いて行っている。下図にレビュー依頼とURA1名による個別対応数の6月から11月までの時間軸経過を示す。

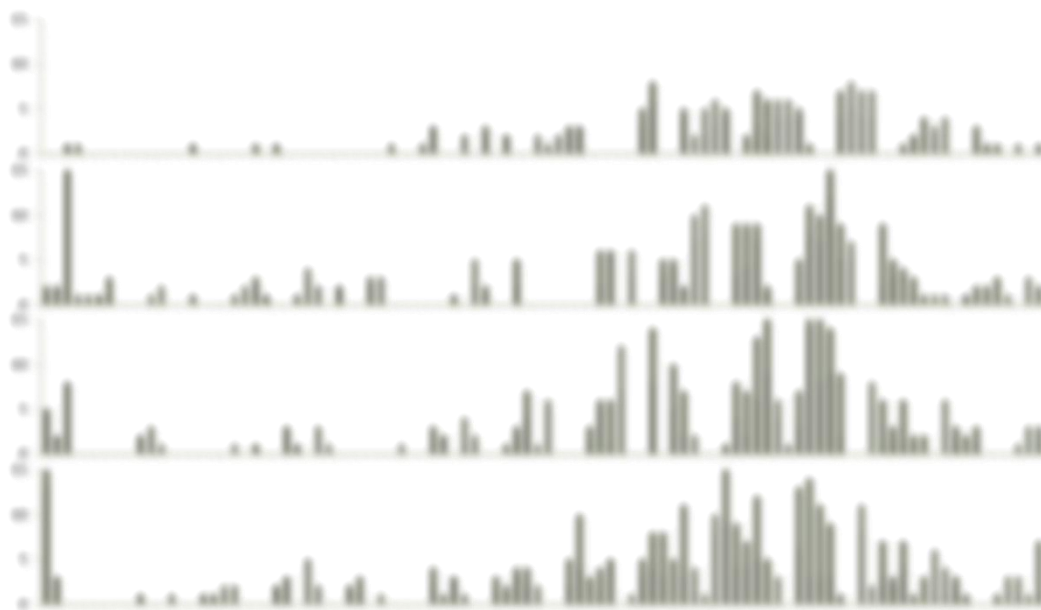
レビュー依頼の総数は毎年増加しており、2017年度より200件を超えている。全キャンパスより依頼がきており、総申請件数の3割を超えていることから、周知できているものと判断している。

依頼へ対応したあとの再依頼（繰返し）も増加していることからサービス活用も進んでいる。2018年度からは早期での依頼を促すとともに面談を実施し、サービス拡充を狙っている。

## 科研費支援

## レビューサービス 定着・充実へ

✓相談件数増 ✓全キャンパス ✓個別対応緻密化



#### (4) 一般社会へ向けた大学・研究ブランディング戦略

文部科学省のブランディング事業採択を受け実施されたアンケート調査によると、本学の一般的な知名度は低くないものの、「大学名だけを知っている」とする回答が半数以上であり、特徴までは認知されていないことが分かった。また「スポーツ活動」「病院」に対する認知度は高いものの、「研究」「国際的」「教育機関としてのビジョン」「リーダーシップ」などのイメージは弱かった。こうした好感度に影響を与えた媒体としては、テレビ番組が最も大きいという結果であった。

一方で研究活動の広報ツールとしても、“スポーツ科学による Health Creation” といったコンセプト主体・未来志向の事業は従来型の論文による指標でのアピール以外に、デジタルコンテンツやメディアの活用が不可欠であるとの分析結果を得たことから、ドキュメンタリーTV番組の制作企画を進めている。

### 今後のブランディング



個々の研究成果の詳細についてはプレスリリースの取り組みが先行し効果を上げているが、ドキュメンタリー番組は点ではなく面でのアプローチにより、大学全体の魅力をストーリーとして伝えることが可能である。テレビでの放映と、さらに映像の二次利用（オープンキャンパスや病院待合室での公開）を行うことで幅広いターゲット層へアピールし、研究プレスリリースとの相乗効果を挙げることを狙う。

一義的には受験生とその保護者、および順天堂医院や病院への来院患者に対してのイメージ向上が見込まれるが、想定する効果はそれだけに留まらない。研究活動への知名度やイメージが向上することで将来的に学生や研究者の質向上へとつなげ、そこから得られた研究成果を再び積極的に広報するサイクルを展開していく予定である。

#### IV. JURA の課題

文部科学省が 2018 年 2 月に設置した「リサーチ・アドミニストレーター活動の強化に関する検討会」のとりまとめでは、URA を巡る課題として以下の 4 点が指摘されている。

- ①実務能力を証明するためのツールの確保
- ②育成のための機会確保
- ③大学等としての成果の把握・管理
- ④URA としてのキャリア形成・雇用環境の充実

これらに照らして JURA の現状をみると、下表のようにまとめられる。

項目	JURA の課題
①	上記Ⅱ. 3. [6 ページ]の記述のとおり JURA 募集の際に高いレベルの能力を求めて採用していることから、現時点で課題とはなっていない。
②	
③	<p>研究戦略会議（上記Ⅲ. 6. [35 ページ]）において、各 URA から担当業務の現状、実績等に関して戦略的なプレゼンを行い、学長特別補佐、研究戦略推進センター研究戦略室長及び総務局長等との意見交換を実施している。</p> <p>さらに、2019 年 1 月には、大学における人材政策、特に URA に造詣の深い山本進一氏（大学改革支援・学位授与機構研究開発部長、研究大学コンソーシアム全体会議議長）を講師に招き、各 JURA から担当業務及び実績等をプレゼンし高い評価を得ている。</p>
④	<p>JURA は、一定の試用期間後に無期雇用に転換しているが、今後におけるキャリアパスを検討する必要がある。</p> <p>また、勤続年数に応じて、科研費レビュー等に関するスキルや若手研究者に対する指導力も向上するものと考えられることから、その実績等を適切に評価することによる処遇改善についても検討する必要がある。</p>

この 5 年間で JURA の活動基盤は固まってきたといえる。つまり、URA 全員で研究者のニーズに応じて、科研費等の申請書レビューを情報共有しながら、丁寧かつ緻密に展開することは、本学の研究力向上に貢献する土台となっている。このように URA 全員共通の業務実施をベースにしながら、各自の分担業務（上記Ⅱ. 2. [5 ページ]）を並行して実施する形態が定着している。

今後においては、科研費申請書レビューの増加傾向に対応するための JURA の拡充、特に本年度の文部科学省公表資料において科研費採択総額 10 億円を達成したものの、現状では申請採択状況はほぼ飽和状態にあると考えられることから、URA のエフォート全体を勘案しつつ、「不断前進」の理念の下、研究者ニーズを踏まえた新たな支援活動を戦略的かつ積極的に開拓していくことが必要である。

その際、研究資金の獲得支援の観点のみならず、教員の研究時間の確保に直接的につながるような支援活動について、教員のニーズを把握しつつ検討することも必要である。

## おわりに

このたび、順天堂大学 URA (JURA) の過去 5 年間にわたる活動に関する報告書が、取りまとめられたことは、今後における研究大学としての方向性を探る上で重要な意義を持つと考えられます。

すなわち、研究大学にとっての URA は、研究活動全般にわたる支援、特に競争的研究資金の獲得戦略の企画立案、補助金等の申請書作成支援、大型研究プロジェクト実施及び研究成果の広報等に関わる専門的な業務遂行に当たり、重要かつ不可欠な研究支援専門職者となっており、JURA は本学における研究者の研究活動時間の確保及び科学研究費助成事業はじめ各種の公的研究費等の獲得などに大きく貢献しています。

例えば、本報告書 9 ページ「(Ⅲ-1-③) URA が関与した科研費配分額の推移」、「(Ⅲ-1-④) 順天堂大学と全国の科研費採択率」をみれば明らかなように、本学の科研費採択の伸びは JURA の活動期間に呼応しており、JURA による科研費申請書レビュー等は確実に効果を発揮していると言えます。

また、同じく 10 ページ「(Ⅲ-1-⑤) 順天堂大学と主要な私立大学の科研費採択件数の伸び率」をみると、本学の研究力がこのように伸展してきた背景には、①個々の教員による不断の研究活動による成果の蓄積、②それに裏打ちされた競争的研究資金への積極的な応募、③大学全体としての研究マインドの醸成や法人による物心両面からの継続的な支援などを挙げることができます。これらの多くの場面においても JURA の活動は、大きな役割を果たしています。

一方、2018 年 6 月に閣議決定された「統合イノベーション戦略」においては、大学教員の研究時間割合の確保が目標として設定され、また文部科学省が本年 6 月に公表した「平成 30 年度大学等におけるフルタイム換算データに関する調査 (概要)」では、大学教員の研究時間割合について、「保健分野においては、2013 年度から引き続き研究時間割合が減少し、」と報告されています。一般的には教員の研究環境の改善が進んでいないということになります。

これらを踏まえて健康総合大学・大学院大学としての本学においては、教員の研究時間を確保し研究活動を一層活性化して、更なる研究力の伸展を図るためには、今後とも JURA をはじめとした研究支援体制の充実強化が必要であると考えています。

2019 年 11 月

研究戦略推進センター長  
新井 一